

# 内なる人

シカゴ イリノイ州 アメリカ合衆国

1953年12月12日

1 あらゆる場所に入ろうと努力してはりましたが……今こそ、その時です。

ありがとうございます、ボーズ兄弟。皆さん、こんばんは。

今夜、あなたがたと共にここで主にお仕えできることを、心から嬉しく思います。

昨晩はお約束を果たせず、本当に申し訳なく思っております。それは私の責任ではありませんでした。私はここに来ておりましたが、ちょっとした事情が起こり、あちらの教会では、もし私がそこで語るなら、こちらでは語れない、そしてこちらで語るなら、向こうでは語れない、ということになってしまったのです。

ですから、少なくとも自分の言葉には誠実でありたいと思い、ここでお話することをお約束しておりましたので、その約束を守って参りました。こうして皆さんと共にいられることを心から感謝し、今宵と明晩の二晩、主が私たちをお助けくださり、恵みに満ちた素晴らしい礼拝のときを与えてくださるよう祈っております。

2 少し疲れております。フロリダでの集会を終えたばかりで……もうこれで6週目になるでしょうか。本当にずっと礼拝や集会が続いておりましたので、良い意味で、とても疲れております。

——(テープの空白部分)——

ある晩には、ビリーと私とで、あの小さな古いシボレーのトラックに乗って、一晩で約1,100マイルも走ったこともありました。丸一日、23時間かけての道のりで、左右どちらにも身体を傾けながら運転したものです。それでも、その旅は良い時となりました。真っ直ぐ家に戻って、それからすぐにここへやって来たのです。

昨晩は本当に疲れておりました。少し遅れて到着し、7時過ぎにはこちらに着いて、会場に向かいました。そこで、ある教派に関して何か問題があったと聞きました。

ですが、私は「超教派(インターデノミネーション)」であります。

——〔会衆の拍手〕——

ありがとうございます。これは私の心からの言葉です。もし私たちが超教派であるならば、それはすべての教派のためでなければなりません。どのような種類の教派であっても関係なく。特定の教会や特定のグループのためだけではありません。それは、すべての人のためなのです。

3 私は、神の父性と、人類の兄弟愛を信じています。

私たちは皆、兄弟姉妹であり、そのように歩むべきだと信じます。神にはご自身の子どもたちがいて——たとえば、私やあなたの信じ方が少し異なっていたとしても——神はその子どもたちを受け入れておられるのですから、私たちも彼らを兄弟姉妹として受け入れなければなりません。そうでしょうか?——そうです。

そして、この……こちらのフィラデルフィア教会においても——(ありがとう、ボーズ兄弟)——私がスウェーデンに行った時、スウェーデンの人々から受けたもてなしは、生涯でこれ以上ないほどのものでした。本当に愛情深く、親切にいただきました。

4 私がこれまでどこへ行っても、いつも本当に良くしていただきました。さまざまな人々がいますが、皆さん親切にしてください。ですから、私は特定の教派というものを持っておりません。

こう申し上げたことがあります——私はブラナム家に加わってから、もう40年以上になりますが、一度も「家族に入会してください」と言われたことはありません。ただ……私は生まれながらにブラナム家の者なのです。

クリスチャンも同じではないでしょうか? 私たちは「生まれながらに」クリスチャンなのです。

もちろん、教派を持つ教会に反対しているわけではありません。それぞれが何を信じるかは、その人や教会の自由です。けれども、兄弟愛を分け隔てるべきではないと思うのです。——アーメン。

私たちは皆、主を愛し、そして主にお仕えすべきだと信じます。

5 私はこれまでの生涯で、いつもこうありたいと努めてきました。

もし私の周りから、神の御霊による愛に満ちたあの温かな感覚が感じられなくなったなら——そこには何か間違いがあるはずです。ですから、その甘く優しい感覚を失ってしまうようなことには関わりたくありません。私はそれを、いつもそばに感じていたいのです。なぜなら、それこそが、私が神の民を助けるために用いられるものだからです。

皆さんも経験があるでしょう——そばにいたことすら辛く感じるような人の存在を。もしかすると、その人が口汚く罵ったり、乱暴な言葉を発したりするかもしれません。しかし、それはその人自身が悪いということではなく、そのような種類の霊に覆われているということなのです。

私は、友好的で、親切で、穏やかで、兄弟愛にあふれ、そして愛に満ちた霊が好きです。私はそういう在り方を信じていますし、そう歩みたいと願っています。

6 ふと思ったのですが——私たちは神の実を結ぶ者です。

ヨハネによる福音書17章〔※実際の引用箇所は15章〕で、イエスはこう言われました。

“Ye are the branches.”

「あなたがたは枝です。」

そして主はご自身を「ぶどうの木」と呼ばれました。

ぶどうの木は実を生み出しますが、それを実際に支え、つけるのは枝です。

ですから、その枝が木から命を受けているなら——その命は木と同じ命でなければなりません。そうでしょう？ 必ずそうなのです。

私たちの手、唇、そして目——それらは、この地上における神の手であり、神の唇であり、神の目です。今、主は神のもとに帰られ、ご自身の御霊の力を送って、私たちを聖霊によって油注ぎしてくださっています。そして、もし私たちが主に従順であるなら、私たちの手は主の手を表すのです。

だからこそ、主はこう言われました。

“They shall lay hands on the sick, and they shall recover.” (Mark 16:18)

「病人に手を置けば、彼らはいやされる。」(マルコ16:18)

ご覧なさい。聖霊を受けるとき、使徒たちは人々の上に手を置きました。そして、そこで何かが起こったのです。魔術師シモンは、ペテロが人々の上に手を置き、彼らが聖霊を受けるのを見て、確かに何かが起こっていることを悟ったのです。

これは神の賜物であり——確かに現実に起こることなのです。

7 さて——ここにいらっしゃるお母さまたち……「手を置く」ということの意味を知らない方はおられないでしょう。赤ちゃんがぐずって泣き、落ち着かないとき——お母さんの手がその子にそっと触れるだけで、すべてが変わります。赤ちゃんは泣き止み、お母さんに身を寄せます。あれが「手を置く」ということです。母と子との接触なのです。

また、こんな経験をされた方もいるでしょう——とても神経質で落ち着かない馬を飼ったことがある方。そんなとき、馬好きの人がやって来て、その馬を軽く撫で、「よしよし」と声をかけながら——〔ブラナム兄弟、説教台を軽く叩く〕——その体に手を置いてやると、どうでしょう。しばらくすると馬は落ち着きを取り戻します。

病人に手を置くのも、それと同じです。もし私たちが神からの油注ぎを受けてそれを行うなら、私たちの手は神の手を表します。神がこの地上でお持ちの手は、私たちの手だけなのです。そして私たちは、その手をもって病人のために祈るのです。

8 まず、お医者さんについてですが——多くの場合、医師の中には聖霊に油注がれ、患者さんのために祈る方もおられます。医師は自らの専門教育を受け、科学を学び、大きな進歩を遂げてきました。それは私た

ちの病院や医療において、さまざまな面で助けとなってきました。

お医者さんは診察に入り、ガラス板やX線を通して体内を見ます。そこには腫瘍や、骨折など、問題のある部分が映し出されます。

考えてみると、これは昔の科学の考え方とは大きく異なります。かつて科学は「光は太陽光だけだ」と言っていました。けれども、聖書はこう言っています——

“The light of the body is the eye.” (Matthew 6:22, KJV)

「からだのあかりは目である。」(マタイ6:22)

私たちの全身は光で満ちているのです。X線はそれを証明しています。これは私たちの体そのものが持つ光であり、その光が影をつくることで、X線を通して内部の状態が見えるのです。

9 もし医師が、切除できる腫瘍や、五感のいずれかで捉えられる異常を見つけることができれば——そうすれば、医師は処置を施すことができます。今日、私たちには非常に優れた医師たちや、立派な病院、そして良質な薬が与えられています。これらを与えてくださった全能の神に、私たちは心から感謝しています。私も本当に感謝しています。

医師たちは可能な限りのことをしてくださいますが、ときにはその力が及ばないこともあります。どうしても手が届かない場合もあるのです。そんなとき、私たちは完全な権利を持っています——人間のあらゆる手立てが尽きたときでも、神に近づき、助けを求める権利を。そうです。そして神は、その願いに答えてくださると約束されました。

医師は自分を「癒す者」だとは主張しません。誰かを癒す力があるとは言わないのです。彼らが主張するのは、自然が働くのを助けるということだけです。癒し主は神なのです。

たとえば腕を骨折した場合、医師はその骨を正しく整えることはできますが、その骨を癒すことはできません。医師はあくまで骨を元の位置に戻すだけです。骨を癒すのは、自然——彼らはそう呼びますが、私たちが本質を理解するなら、それは神ご自身なのです。

10 医師は悪い歯を抜くことはできます。けれども、その歯のあった歯茎を癒すのは医師ではありません。医師はただ歯を抜くだけです。悪い虫垂(盲腸)を取り除くことはできますが、その癒しを行うのは神なのです。わかりますか？

薬は患部を清潔に保ちますが、新しい組織を造り出すのは神です。神こそ唯一の創造者ではありませんか。その神が細胞を造り、それによって癒しが進み、また私たちの信仰も築かれていくのです。

さて——考えてみてください。もし世界全体が……もちろん全世界すべてがそうであれば素晴らしいのですが……医療科学も、あらゆる教派の教会も、すべての人種・肌の色の人々も、神との調和の中で兄弟愛を持って共に働くことができたなら、どんなに素晴らしいことでしょう。私たちの心からその隔たりを取り払い、すべての人が一人の方から出てきたことを知ることができれば……そうです。

そして覚えていてください——ある兄弟がつかずき倒れたとしても、その人をさらに悪く言うてはなりません。なぜなら、私たちはその人を助け起こし、もう一度神の兄弟愛の中に立ち返らせるよう努めるべきだからです。

私のクリスチャンの友よ、これこそが、私が長年抱いてきたビジョンです。世界が今日、最も必要としていること——それは神のもとに立ち返ることです。私はこれからも、私にできるすべてを尽くして、人々を神のもとに戻し、兄弟愛とキリストの愛に満ちた交わりを人々の間にもたらすために働き続けたいのです。

11 さて、今夜ここにおられる多くの方々はペンテコステ派の兄弟姉妹であると承知しています。私が直前まで行っていた集会は、フロリダでバプテスト派の方々が主催してくださったものでした。そこでは、さまざまな教派、さまざまな背景を持つ人々が集まり、共に礼拝をささげました。

そして、こうした経験の中で、私たちは時に、ある一つのことにあまりにも強調しすぎてしまうことがある、と感じます。——今夜は、こうして私の心からくつろげる説教台に立ち、皆さんに歓迎されていると知っているので、このことを率直に申し上げます。私が皆さんを愛しているからこそ、お伝えするのです。

私たちは、感情に対してあまりにも多くの重きを置きすぎてきたのではないのでしょうか。たとえば、「私たちが大声で叫び、主を賛美している限り、それはとても良いことだ」と感じるかもしれません。それは確かに良いことです。しかし、それだけで全てではありません。あるいは、「異なる言語で語る力を持っているから、それで十分だ」と思うかもしれません。しかし、それもまた全てではありません。

もし、このフィラデルフィア教会が、私を神のしもべとして受け入れてくださるなら——私はこう申したいのです……

12 皆さん——私が思うに、今日、教会にとって最も大きな必要が何か、お聞きになりたいでしょうか？ また、どこに欠けがあるのかをお伝えしてもよろしいでしょうか？

それは——「魂のための産みの苦しみ」がないということです。人々の心が十分に砕かれていないのです。魂の重荷が、ほとんど感じられません。

しかし、私にとって真に用いられる人とは——失われた魂のために心を引き裂かれ、涙を流し、リバイバルを求めてやまない人です。その思いのあまり食事ものを通らず、ただ魂の救いを切望する——そんな人です。

世界の歴史、また信仰の歴史をひも解けば、必ずそのような霊が働いた時にこそ、リバイバルが起こってきたことが分かります。そうです。聖書にもこうあります——

“As soon as Zion travailed, she brought forth her children.” (Isaiah 66:8, KJV)

「シオンが産みの苦しみをしたとき、その子らを産んだ。」(イザヤ66:8)

私たちは心を砕かれなければなりません。それが、何事においても命を生み出す“空気”なのです。

13 皆さん——口論ばかりしている場所に行けば、そのような空気に包まれてしまいます。教会の中に、不従順で、醜い態度を取り、混乱を引き起こす人がいるなら——そのような雰囲気の中では、決してリバイバルを起こすことはできません。

ですから、すべての人が心一つにする必要があるのです。

思い出してください。聖霊がペンテコステの日に降られたとき、彼らは皆、同じ場所において、心一つにしていました。そうでしょうか？ そして約束を待っていたのです。

私たちが同じように一つ心になったとき——ボーズ兄弟、そのときリバイバルは必ずここに訪れます。そうです。

14 今日、私たちは各地で多くの魅力的な集会を持っています。南部ではそれを「プロラクティブ・ミーティング」と呼びますが——これは単に「リバイバル」という代わりに使われる言葉にすぎません。けれども、私が見るところ、それは本物のリバイバルではなく、ただの集会になってしまっているのです。

なぜなら、私にはまだ、この国に真のリバイバルが起こっているとは思えないからです。

本物のリバイバルとは——ウェールズのリバイバルやスコットランドで起こったリバイバル、あるいはジョン・ウェスレーの時代に見られたような、魂が打ち砕かれ、全世界を揺るがすようなリバイバルのことです。あのようなときこそ、真のリバイバルがあったのです。

ところが最近、私のミニストリーで見えてきたのは——聖霊に満たされた人々であっても、ただ神が何をなさるか、どんなしるしや不思議を行うかを眺めているだけ、という姿です。

神があるわざを行われても、人々は座ってこう言うのです——「ああ、素晴らしいですね」。そして、神がまた別のことをなさっても——「ああ、良いことです。感謝します。神はお優しい」。そんな調子です。そして心の奥では、まるでこう言っているかのようです——「神よ、それはあなたの務めでしょう。あなたは義務としてそれをなさったのですね」。

15 しかし——もし本当にリバイバルの空気が満ちていたなら、神のわざがひとつでも現れた瞬間に、その場のすべての魂がそれをすぐに受け取り、「ああ、なんといいことだ！」と燃え上がり、それは終わることなく広がっていくはずで、一人からもう一人へ、さらにその次の人へと、途切れることなく流れ続けるのです。

私は皆さんと同じアメリカ人ですが——アフリカの、いわゆる異教の地と呼ばれる場所に行ったとき、その福音の受け止め方を目にして、私たちはむしろ恥ずかしく感じるほどでした。

彼らは、ひとつの超自然的な御業が行われるのを見るや否や——三万人もの人々が、一度にキリストを個人的な救い主として受け入れたのです。そうです、三万人です。それも異教徒と呼ばれる人々が、です。そこには議論も疑いもありませんでした。ただ「それで決まり」だったのです。

16 そして——こう申し上げたいのです。私は、私たちの民は教育や神学などにあまりにも頼りすぎ、その結果、聖霊の働きに取って代わらせてしまったと思います。

ここで皆さんにお伝えしたいことがあります。確かエゼキエル書9章——間違っているかもしれませんが、おそらくそこだと思います。

聖霊が行かれる前に——まず門の後ろから、人を殺す武器を持った人々が出て行きました。これはもちろん、聖書的に正しく適用すれば、エルサレムが滅ぼされる直前のことです。

そして、一人の人が、白い衣を着て、腰に書記用の筆入れ(インク壺)をつけて現れました。神はその人に命じられました——

“Go through the midst of the city, through the midst of Jerusalem, and set a mark upon the foreheads of the men that sigh and that cry for all the abominations that be done in the midst thereof.” (Ezekiel 9:4, KJV)

「都の中、エルサレムの中を巡り、その中で行われているすべての忌むべき事のゆえに嘆き、泣き悲しむ者の額にしるしをつけよ。」(エゼキエル9:4)

これは、聖霊による「額にしるし」、すなわち封印のことです。その町で行われるすべての忌まわしい行いを見て、心を痛め、涙を流していたすべての人——その者たちの額にしるしをつけよ、と神は命じられたのです。

17 そこで、皆さんにお尋ねします——もし主が今夜、シカゴの町を巡られるとしたら、いったい何軒の家庭で、魂の産みの苦しみに押しつぶされそうになりながら、ただりバイバルを求めてすすり泣いている人々を見つけれられるでしょうか。もう耐えられないほどの魂の痛みを抱え、「どうしたらよいのか分からない」と嘆く人々を——。

シカゴにはおよそ500万人が住んでいます。その中で、主が今夜「しるし」をつけられる人がどれほどいるでしょう？ どこにおられるでしょう？ おそらく、その数は両手で数えられるほどしかないのではないのでしょうか。

しかし、覚えていてください——神は、そのような重荷を抱いた人以外には、しるしをつけられなかったのです。わかりますか？ 私たちは、神の前で心を柔らかくされなければならないのです。

さて——主が皆さんを祝福してくださいませうように。ここで、神の御言葉を読みたいと思います。私の言葉は、ほかの誰の言葉と同じく、必ずしも完全ではありません。しかし、神の御言葉は決して失敗しません。

明日の朝、私は日曜学校でお話をさせていただくことになっていると聞いています。確か、午前11時からだったと思います。そして……

18 そうですね——そして明日の夜も、再び午後7時半……いや、7時からですね。同じ時間に集まります。どうぞ、病を抱えておられる方、苦しんでおられる方を連れて来てください。そして、私たち皆で心一つにして、真剣に祈りましょう。私は、神が必ず私たちのために何かをしてくださると信じています。

そして今のところ、これが海外に行く前の、私にとって最後の集会になる予定です。ですから、ここシカゴの愛する皆さんに、どうか私のために祈っていただきたいのです。これまで以上に、その祈りを必要としています。私は、神が海外で私たちのために大いなるわざをなしてくださると信じていますし、確信しています。

皆さんには分からないかもしれませんが——しかし、正面から反対や試練と向き合っているとき、「そうだ、シカゴの集会に来てくれた多くの人々がいた。あの中には、今も祈ってくれている人がいるはずだ。マイアミから祈ってくれている人がいる。パームビーチから祈ってくれている人がいる。あちらからも、こちらからも祈りが送られている」と心に思えることが、どれほど力になるか。

その祈りがすべて一つになったとき、私は「祈りにぐるりと囲まれている」と確信できるのです。それが分かると、本当に——本当に力が湧いてくるのです。そしてこう言えるのです。「サタンよ、見てみろ。私は祈りに囲まれているのだ」と。そして、自分たちの立つべき立場を知るのです。

19 皆さん……あなたの体の中には、もう一人の“人”がいるということを、考えたことがありますか？ ご存じでしたか？ この体の中には、もう一人の“霊の人”がいるのです。ライアン兄弟、これについて考えたことはありますか？ そうです、この内なる人のことです。

さて、この“内なる人”が神からのものであれば、それは神の御霊です。そうでしょう？ それが私たちの存在の内側にあります。

例えば、私の指は、何かを動かさなければ動きません。それは、潜在意識の領域で働く知的な命令から動くのです。もし私が何かを取ろうと思えば、深く考える必要はなく、自然にその動作が起こります。——そして、ここにこそ「信仰」が働くのです。

ですから、今ここにおられる本当に病を抱えている方々——聖書朗読に入る前に、これをぜひ心に留めていただきたいのです。昨夜からの出来事もあり、私自身少し気持ちが沈んでいましたが、これを皆さんに説明したいと思うのです。

20 私たちには「意識」と「潜在意識」があります。それはちょうど……たとえば私たちが船で海外に向かうとします。その船の上部には指令を出す人が座っていて、船の下の機関室には船を動かす人がいます。機関室の人は自分がどこへ向かっているのかを見ていません。ただ、上からの命令を受けて動くだけです。「左に舵を切れ」「右に舵を切れ」「このエンジンの出力を上げろ」——そう言われれば、その通りに操作します。ただ命令通りに動くだけなのです。

同じように、私たちの奥深く——心の中には「潜在意識」があり、それは上(意識)から命令を受け取って働きます。

皆さんも、私がプラットフォーム(説教台)で奉仕しているときに、このことを何度も目にしたことがあるでしょう。つい先日も、オーエンズボロでの集会の録音を聞いていましたが、その中で、足の不自由な方が癒された出来事がありました。そのときに、どのように聖霊が語られたのか——その記録が残っていたのです。

21 ここ(意識)では——たとえば説教台に上がってきて——「ブラナム兄弟、主を賛美します。私は信仰を持っています」と言います。けれども、もっと奥の小さな意識(潜在意識)がこう囁くのです——「いや、実は持っていないだろう」と。わかりますか？

もし、この上の意識と下の意識とを一致させることができれば……つまり、上の意識が「はい!」と言い、下の意識も「はい!」と言え——けれども、しばしば心のずっと奥に、小さな影のようなものがあって、それが「本当かな……?」と引き止めてしまうのです。

この「小さな者」とあまりやり取りしないようにしてください。なぜなら、実際には彼こそが物事を支配しているからです。船を動かすのはこの下の部分(潜在意識)です。舵を取るのもこの者です。上の意識はたくさんの方のことを言うかもしれませんが、実際に働いているのは下の部分なのです。

ですから、もしこの下の意識が「そうだ、信じる」と言い、そして上の意識も同じく「そうだ」と一致すれば——それで信仰は働くのです。そうなれば、必ず事は成し遂げられます。

22 けれども、この二つ(意識と潜在意識)が一致しなければ——何も起こりません。命令がこちらに行ったり、あちらに行ったりして、船はあっちへ引つ張られ、こっちへ引つ張られ、港を出ることすらできないのです。まだそこに留まったままなのです。

ですから、この二つを一致させ、「神は正しい」と共に告白しなければなりません。上の意識も「神は正しい」、下の意識も「神は正しい」。そうして初めて、前へ進めるのです。命令も整い、何の障害もなくなります。疑う理由はどこにもなく、どんな症状が残っていても、それが信仰を揺るがすことはありません。

たとえ翌朝病院に行って医者がこう言ったとしても——「あなたの腕はまだ固いですね」「癌はまだありますね」——そんな言葉は、あなたをほんの少しも動揺させないでしょう。なぜなら、この意識も、この潜在意識も、そして霊の人とも一致しているからです。

その通りです——信仰は、どんなことでも成し遂げます。

23 皆さん——あなたの内に神がおられます。聖霊を受けたあなたの内には、神ご自身がおられるのです。それを信じますか？

イエスはこう言われました。

“I give you power over unclean spirits, to cast them out.” (Mark 16:17-18, KJV 部分的引用)

「あなたがたに、汚れた霊を制してこれを追い出す力を与える。」(マルコ16:17-18 抜粋)

これは、「わたしが追い出す」ではなく、「あなたが追い出す」のです。

“In My name shall they cast out devils; they shall speak with new tongues; they shall take up serpents; and if they drink any deadly thing, it shall not hurt them.” (Mark 16:17-18, KJV)

「わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り、蛇をも取り扱い、たとえ何か致死物を飲んでも、決して害を受けない。」(マルコ16:17-18)

私たちは、あの偉大な使徒パウロのことを思い起こします。彼はある島に漂着しました。船は難破してしまいました。神は彼に、必ずある目的地——ローマに行き、カエサルの前に立つ——と約束されていたのです。パウロはその神の約束を信じていました。

そのとき彼は鎖につながれた囚人でしたが、それでも人々を助け、薪を火にくべていました。

24 そしてパウロが薪を火にくべたとき、突然、猛毒を持つ大きな蛇が彼の手に噛みつきました。その蛇は極めて毒性が強く、噛まれた者は普通、一分か二分で倒れて死ぬと言われていました。

島の人々はこう言いました——「あの男を見なさい。鎖につながれた囚人だ。きっと人殺しに違いない。嵐は生き延びたが、この蛇からは逃れられない。あの男は死ぬに違いない」と。

しかしご覧ください——パウロはその瞬間、状況を見ても、意識も潜在意識も霊の人も、すべてが一致していました。恐れは影すらありませんでした。

彼は主の約束を思い出しました。

“They shall take up serpents; and if they drink any deadly thing, it shall not hurt them.” (Mark 16:18, KJV)

「彼らは蛇をも取り扱い、たとえ何か致死物を飲んでも、決して害を受けない。」(マルコ16:18)

その死に至る毒の噛み傷を見ても、恐れはありません。もし恐れが入れば、サタンが入り込みます。サタンは恐れそのものです。しかし、完全な愛は恐れを締め出します( Iヨハネ4:18)。

パウロはこう確信していたのです——「私は神のしもべだ。たとえ蛇が手にぶら下がっていても、ここにも、ここにも、ここにも(意識・潜在意識・霊の人)、恐れは一かけらもない」。すべてが調和していたのです。

25 パウロはその蛇を見て、こう思ったでしょう——「ふむ、ふむ」。そしてそれを火の中に振り落とし、また薪を取りに行き、それを火にくべました。

「パウロ、恐ろしくはないのですか？　すぐにでも倒れて死んでしまうのでは？」と誰かが言ったかもしれませんが。

パウロはこう答えたでしょう——「いや、もちろんそんなことはない。死ぬはずがない。聖霊が私の内におられるのだから」。

天と地を造られたまさにその聖霊が、この人パウロの全存在を御力で満たしておられたのです。そのため、蛇の牙に宿る死の毒は、彼の体に入ることすらできませんでした。なぜなら、その体全体が血で満ちているのと同じように、聖霊で満ちていたからです。そうでしょう？

26 血の一つひとつの小さな細胞の中にいのちがあります。そして、そのすべてが聖霊で満たされ、力で満ちあふれている——そうであればどうでしょう。もちろん、彼らは水の上を歩き、大いなる奇跡を行いました。なぜでしょう？ それは、初代教会が神と完全に一致していたからです。

そして、クリスチャンの友よ——私たちが再びそこに戻るまでは……。

教派と議論したり、口論したり、言い争ったりしても、そこには到達できません。教派そのものが私たちをそこへ導くことはできません。それをもたらすのは、完全な愛と、神への絶対的な信頼だけです。

私たちは——叫ぶこともできるでしょう。異言を語ることもできるでしょう。神学の偉大な教師になることもできるでしょう。神学博士号(DD)を肩書として掲げることもできるでしょう。しかし、この意識と、この潜在意識と、そして霊の人が完全に一致しない限り、それは決して働かないのです。

それこそが——

27 それは、ちょうど電気のようなものです。片方の線——プラスかマイナスのどちらか一方でも外してしまえば、確かに電気は流れません。必ず接地(アース)が必要で、しかも良い接地でなければなりません。そして適切な種類の電線がそろう、すべてが正しく接続されていれば、その電流は確実に流れるのです。それだけのことです。

同じように、もし私たちが本当にキリストにしっかりと接地され(根ざし)、聖霊を内に持ち、神への信仰に根ざし、かつしっかりと立っているなら——必ず、この福音の光を世界に運ぶことができます。そうです。それは病人を癒し、大いなる御業を行うのです。

クリスチャンの皆さん、主があなたに豊かな祝福を注がれますように。そしてその祝福を受け取ってください。

さて、民数記——もう祈りの列を始める時間を過ぎていますが——どうしてもお読みしたい聖書の箇所があります。民数記21章です。先ほどから、この御言葉が私の心に強く迫ってきています。とてもよく知られた箇所です——モーセとイスラエルの民についての記録です。これから朗読しますが、神が御言葉を祝福くださるよう心から願います。

28 これから朗読しますが——先ほどお話ししたことを、どうか心に留めてください。忘れないでください。

イエスがある木のそばを通られたとき、その木には実がなかったのです。するとイエスはこう言われました。

“No man eat fruit of thee hereafter for ever.” (Mark 11:14, KJV)

「今後いつまでも、おまえから実を食べる者がないように。」(マルコ11:14)

その後イエスはエルサレムに向かわれました。そこでは人々が主に反対して騒ぎ立てており、そのような雰囲気は主にとって良くありませんでした。そこで主はその場を離れ、山を下りられました。

翌朝、再びその場所を通ったとき——おそらく午前11時ごろ——ペテロがその木を見て言いました。

“Master, behold, the fig tree which thou cursedst is withered away.” (Mark 11:21, KJV)

「先生、ご覧ください。あなたが呪われたあのいちじくの木が、根元から枯れています。」(マルコ11:21)

そうです、その木は根元から乾き、枯れていたのです。

29 するとイエスは言われました。

“Have faith in God.” (Mark 11:22, KJV)

「神を信じなさい。」(マルコ11:22)

その通りです。そして続けてこう言われました。

“For verily I say unto you, That whosoever shall say unto this mountain, Be thou removed, and be thou cast into the sea; and shall not doubt in his heart, but shall believe



that those things which he saith shall come to pass; he shall have whatsoever he saith.” (Mark 11:23, KJV)

「まことにあなたがたに言います。だれでもこの山に向かって『動いて、海に入れ』と言ひ、心の中で疑わず、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。」(マルコ11:23)

ご覧なさい——「もしあなたが」と言われました。これは「もしわたしが」ではなく、「もしあなたが」なのです。疑わなければ、それは必ずそのとおりになります。

ですから、上の意識で信じるだけでなく、下の潜在意識でも信じなければなりません。この意識と潜在意識が共に神と一致するとき、必ずそれは起こるのです。

さて、民数記21章5節からです。

“And the people spake against God, and against Moses, Wherefore have ye brought us up out of Egypt to die in the wilderness? for there is no bread, neither is there any water; and our soul loatheth this light bread.

And the LORD sent fiery serpents among the people, and they bit the people; and much people of Israel died.

Therefore the people came to Moses, and said, We have sinned, for we have spoken against the LORD, and against thee; pray unto the LORD, that he take away the serpents from us. And Moses prayed for the people.

And the LORD said unto Moses, Make thee a fiery serpent, and set it upon a pole: and it shall come to pass, that every one that is bitten, when he looketh upon it, shall live.

And Moses made a serpent of brass, and put it upon a pole, and it came to pass, that if a serpent had bitten any man, when he beheld the serpent of brass, he lived.

And the children of Israel set forward, and pitched in Oboth.” (Numbers 21:5-9, KJV)

「民は神とモーセとに逆らって言った、『なぜ、あなたがたは我々をエジプトから導き上って、この荒野で死なせようとするのか。我々にはパンもなく、水もない。この軽い食物は我々のたましいにいや気がしている』。

すると主は燃える蛇を民の中に送られたので、蛇は民をかみ、多くのイスラエルの民が死んだ。

それで民はモーセのもとに来て言った、『我々は罪を犯しました。主とあなたに逆らって語ったからです。どうか、主に祈って、この蛇を我々から取り去ってください』。そこでモーセは民のために祈った。

主はモーセに言われた、『あなたのために燃える蛇を造り、それを旗ざおの上につけなさい。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見るとき、生きるであろう』。

そこでモーセは青銅で蛇を造り、それを旗ざおの上につけた。もし人が蛇にかまれても、その青銅の蛇を仰ぎ見るとき、生きた。

こうしてイスラエルの人々は進んでオボテに宿営した。」(民数記21:5-9)

30 私の聖書は鉛筆の書き込みや印でいっぱいになっていて……先ほど読んでいたうちに、場所を少し見失ってしまいました。申し訳ありません。ですが——主が今、この御言葉を祝福してくださいますように。

困難があったとき、神はいつも、その民の必要を満たしてこられた神でした。皆さんもそれをご存じです。そして神は、彼らの必要を満たすと約束されました。

イスラエルの民は確かに過ちを犯し、罪を犯し、悪いことをしていました。しかし、彼らが癒しを必要としたとき、神は——まだ贖いが備えられていなかったその時代に——癒しのための贖いを備えられたのです。ご覧ください。神はどんな困難の中でも、脱出の道を備えられるお方です。

ただ、あなたが信仰を持ち、神を信じるなら——神は必ずそれをなさいます。

31 さて、彼らはあの荒野の真ただ中にいました。モーセはおそらく医者のような知識を持っていたでしょう。彼はエジプト人のあらゆる知恵に通じ、蛇にかまれたときの治療法も多く知っていたはずで

しかし、この時ばかりは、エジプトの知恵も薬も役に立ちませんでした。なぜなら——民がモーセに逆らい続け、「なぜ私たちをこの荒野に連れ出したのか」と文句を言い、いつも不平をこぼし続けていたからです。その不従順が罪を招いたのです。

そして、病は直接的にせよ間接的にせよ、罪によってもたらされます。罪がなかった時、人には病もありませんでした。ですから、病は罪の性質から生じたものです。それは必ずしも本人の行為によるものとは限らず、受け継いだものでもあります。神は「親の不従順のために、その咎を三代、四代にまで訪れる」と言われました。そしてそこには病も含まれているのです。

ここで、良い医者例を考えてみましょう。もしあなたが良いお医者さんのところに行き、「先生、頭が痛いんです」と言ったらとします。もしその医者が本当に患者を大事に思っているなら、「ああ、そうですか。アスピリンを飲んで帰りなさい」とだけ言って済ませることはしません。そうではなく、まず診断をし、その頭痛の原因を正確に突き止めようとします。その頭痛には必ず原因があるのです。アスピリンで治る場合もあるかもしれませんが、本当に良い医者なら、そんなふうになんか軽くあしらわず、できる限りの最善を尽くすでしょう。

32 もし医者がこう言ったとします——「うーん、たぶん虫垂炎でしょう。手術しましょう」。しかし、十分な診断をせずにそんな判断を下すのは、やはり正しくありません。まず原因を突き止めることが必要なのです。

そして、これは神の働きにおいても同じです。この集会での癒しも、同じ原則に基づいています。

私が患者さんを扱うときに、あえてゆっくり進めるのは、まず「何がその病を引き起こしたのか」という原因を見つけるためです。医者が何もできない場合には、なおさら、その病の原因や理由を見つけることが必要になります。

ですから、多くの場合——集会に来られた方はご存じでしょうが——聖霊がその人に、長い年月前に犯した隠れた罪や、すべきであったのにしなかったこと、あるいはすべきでなかったのにしてしまったことを明らかにされるのです。それが説教台の上で起こる光景を、皆さんもご覧になったことがあるでしょう。

33 これは、神が御霊を遣わし、人々の心の秘密を明らかにされる働きです。イエス・キリストが地上におられたとき、それがまさに主の務めでした。

ヨハネの福音書4章に登場する、一人のサマリヤの女を思い出してください。彼女は本当に「いのちの水」を渴望していました。

イエスは彼女に近づき、会話を始められました。

“Give me to drink.” (John 4:7, KJV)

「わたしに水を飲ませてください。」(ヨハネ4:7)

これは、主が彼女と話をするためのきっかけでした。

すると彼女は言いました。

“How is it that thou, being a Jew, askest drink of me, which am a woman of Samaria?” (John 4:9, KJV)

「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女である私に水を飲ませてほしいとおっしゃるのですか。」(ヨハネ4:9)

イエスは答えられました。

“If thou knewest the gift of God, and who it is that saith to thee, Give me to drink; thou wouldest have asked of him, and he would have given thee living water.” (John 4:10, KJV)

「もしあなたが神の賜物と、『わたしに水を飲ませてください』と言った者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうからその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたにいのちの水を与えたことでしょう。」(ヨハネ4:10)

彼女はすぐにその水を求めました。すると主はこう言われたのです。

“Go, call thy husband, and come hither.” (John 4:16, KJV)

「行って、あなたの夫を呼んで、ここに来なさい。」(ヨハネ4:16)

ご覧ください——主はまず、彼女がこの水を受け取れない理由を、真っ先に指摘されたのです。この水を受ける前に、取り除くべき理由があったのです。

彼女は答えました。

“I have no husband.” (John 4:17, KJV)

「わたしには夫がありません。」(ヨハネ4:17)

イエスは言われました。

“Thou hast well said, I have no husband: For thou hast had five husbands; and he whom thou now hast is not thy husband.” (John 4:17-18, KJV)

「『夫がいません』と言ったのは、もったもです。あなたには五人の夫があつたが、今一緒にいるのは、あなたの夫ではありません。」(ヨハネ4:17-18)

つまり、彼女は事実婚の状態にあつたのです。

34 彼女は言いました。

“Sir, I perceive that thou art a prophet.” (John 4:19, KJV)

「先生、あなたは預言者だとお見受けします。」(ヨハネ4:19)

そしてこう続けました。

“I know that Messiah cometh, which is called Christ: when he is come, he will tell us all things.” (John 4:25, KJV)

「キリストと呼ばれるメシヤが来られることを私は知っています。その方が来られるとき、すべてのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」(ヨハネ4:25)

するとイエスは言われました。

“I that speak unto thee am he.” (John 4:26, KJV)

「あなたと話しているこのわたしが、それです。」(ヨハネ4:26)

つまり、「わたしがメシヤだ」とご自身を明らかにされたのです。

彼女は町へ行き、自分の罪が赦されただけでなく、多くの人々がイエスを信じるきっかけを作りました。イエスが彼らに語られたことで、彼女の証しは大きな実を結んだのです。

その後、聖霊が降ったあとにピリポがサマリヤへ下って彼らに宣べ伝えました(使徒8章)。聖書の記録によれば、イエスがサマリヤにおられたとき、そこで奇跡を行われたとは書かれていません。ただ神の国について語られたただけでした。

するとサマリヤの人々は、あの女にこう言ったのです。

“Now we believe, not because of thy saying: for we have heard him ourselves, and know that this is indeed the Christ, the Saviour of the world.” (John 4:42, KJV)

「今は、あなたの話によってではなく、自分で聞いて信じます。この方がまことに世の救い主であるキリストであることを、私たちは知っています。」(ヨハネ4:42)

35 こうしてピリポが下って彼らに説教したときには、すでにイエスご自身が御言葉の種を蒔いておられま

した。おそらく彼らは互いにこう話し合っていたことでしょう——「メシヤがすでに地上におられる。これからはすべてが良くなる」と。

そこへピリポが下り、彼らに説教し始めたのです。その時こそ、癒しが起こり、偉大なしるしと不思議が現れました。

その後、ヤコブやヨハネ、ペテロが下ってきて、彼らを信者の群れにバプテスマによって加えました。そして聖霊が彼らの上に臨み、そこから教会が力強く前進していったのです。

ご覧ください——これが神のなさり方です。まず神は診断をされ、不要なもの、妨げとなるものをすべて取り除き、その上でご自身が人のうちに住まわれるのです。

36 今夜、神がここでなさろうとしておられること——それは、この会衆の中にもし罪があるなら、そのすべてを取り除くことです。私は、ひとりとして罪の中にいる方がいないことを祈りますが、もしそうでないなら……。

「ブラナム兄弟、罪とは何ですか？ 今日、私は怒りを抑えられませんでした。それが罪でしょうか？」——そうお尋ねになるかもしれません。

ちょっと待ってください。罪とは“不信仰”です。これが罪の本質です。ほかに罪はありません。

お酒を飲むこと、タバコを吸うこと、賭博、売春——これらそのものは罪ではなく、罪の結果なのです。なぜそれらを行うのか——それは、その人が不信仰だからです。つまり、それらは罪の性質から生じる「属性」なのです。

37 ですから、もしあなたが信じるなら——そういう行いはしません。イエスはこう言われました。

“He that heareth my word, and believeth on him that sent me, hath everlasting life.” (John 5:24, KJV)

「わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持つ。」(ヨハネ5:24)

信じる者は、そうした行いをしなくなるのです。

考えてみてください——小麦の穂を雑草のオナモミに変えることができるでしょうか？ できません。絶対に不可能です。その穂の命が小麦であるなら、小麦しか実らせません。同じように、もしあなたが神の御霊によって生まれたなら——あなたはクリスチャンであり、クリスチャンの実以外のものを結ぶことはできないのです。それがすべてです。

そしてもし——反対に——他の実を結ぶなら……イエスはこう言われました。

“By their fruits ye shall know them.” (Matthew 7:20, KJV)

「その実によって、あなたがたは彼らを見分けるのである。」(マタイ7:20)

そうです、行いの一部や、これやあれやによってではなく、「その実によって」わかるのです。

38 たとえば、あなたが「この畑には小麦を蒔きました」と言ったとしましょう。ところが私がそこへ行って見て、小麦の実がまったく見えなければ——正直、私は少し疑ってしまうでしょう。

けれども、もしあなたが「この畑に小麦を蒔きました」と言い、その畑が実際に小麦を実らせているなら——それは正しい。あなたの言うとおりです。その実が、その畑に蒔かれたものが確かに小麦であったことを証明しているのです。

同じように、不信仰——それだけが、あなたを神の国から遠ざける唯一のものです。そして罪とは、不信仰のことなのです。

「でもブラナム兄弟、私は酒もやめましたし、そういう悪いこともやめました」とあなたは言うかもしれませんが。——それは一つの理由によってそうなったのです。あなたがそうした唯一の理由は、あなたが信じる者、すなわち“信者”になったからなのです。

39 あなたが「私は信者ではないけれど、それはやめました」と言うとしましょう——それでも、あなたはクリスチャンではありません。そうです、クリスチャンではないのです。たとえどれほど道徳的であっても、それは関係ありません。十戒をすべて守り、立派な道徳を実践していても、もし不信者であるなら、あなたはまだクリスチャンではありません。神の御前においては、依然として死んでいるのです。神の国に入るという観点から見れば、状況は何も変わっていないのです。

もちろん、私は「罪人であろうとなかろうと、人は道徳的であるべきだ」と信じています。道徳を否定しているわけではありません。けれども、本当に変わるためには——

「もうすぐ新年だ。新しいページをめくろう」と人々は言うでしょう。しかし、それだけでは何の役にも立ちません。なぜなら、ただページをめくるのではなく、本そのものを換えなければならないからです。そうです、本を変えるのです。

そうすれば、そのときから神があなたの人生を導いてくださいます。そして、神の聖霊が私たちの内に入り、私たちは神の代表者となるのです。そのとき、もし私たちがキリストの御霊によって支配されているなら、クリスチャンの実以外を結ぶことはできません。

そうでしょう？ キリストの御霊こそが、クリスチャンの霊なのです。

40 イエスはこう言われました。

“He that believeth on me, the works that I do shall he do also; and greater works than these shall he do; because I go unto my Father.” (John 14:12, KJV)

「わたしを信じる者は、わたしのしているわざをも行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」(ヨハネ14:12)

さらにこうもおっしゃいました。

“Yet a little while, and the world seeth me no more; but ye see me: because I live, ye shall live also.” (John 14:19, KJV)

「しばらくすると、この世はもはやわたしを見ません。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるのです、あなたがたも生きるのです。」(ヨハネ14:19)

ここでいう「世」とは、不信仰者、つまりこの世の秩序(コスモス)のことです。主は、「世はもはやわたしを見ないが、あなたがたは見る」と言われました。それは、信じる者には主が共におられ、世の終わりまであなたがたのうちにおられるからです(マタイ28:20)。

この「完全なクリスチャンのいのちの属性」は、一群の人々のうちに宿り、イエス・キリストの再臨の日まで生き続けるのです。

私は以前にも、自分がどのように神を理解しているかをお話ししました。私にとって神は常に三位の神であり、これを一つの三フィートの物差しにたとえます。最初の十二インチは「父なる神」、次の十二インチは「御子なる神」、最後の十二インチは「三フィートを完成させる部分」で、これが「聖霊なる神」です。

つまり私たちは、三人の別々の神——年長の父なる神、年下の御子なる神、さらにもう一人の聖霊なる神——がいるとは信じません。それは異教的な考えです。そうではなく、唯一の神が三つの異なる経綸(デイスペンセーション)の中でご自身を現されたのです。

41 あの朝、神がシナイ山に降りて来られたとき、モーセは戒めを受け取るために山に登りました。神は火の柱の中におられました。それが父なる神であったことは、誰もが知っています。また同時に、それは契約の使者(Angel of the Covenant)であり、その契約の使者とはイエス・キリストです。これは聖書がはっきりと述べています(マラキ3:1参照)。

“Behold, I will send my messenger, and he shall prepare the way before me: and the Lord, whom ye seek, shall suddenly come to his temple, even the messenger of the covenant, whom ye delight in: behold, he shall come, saith the LORD of hosts.” (Malachi 3:1, KJV)

「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼はわたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然その宮に来る。契約の使者、あなたがたが喜びとしている方が見よ、来る、と万軍の主は言われる。」(マラキ3:1)

そこに神は火の柱の中におられ、誰も触れることはできませんでした。神は聖であり、その聖さのゆえに誰一人として近づくことはできなかったのです。

そして神は、その山に降り立ち、ご自身の指でモーセに十戒を書かれました。それはモーセが契約の箱に納めるためでした。

そのとき、稲妻は閃き、雷鳴は轟き、大きな地震が起こりました。それはあまりにも恐ろしい光景で、モーセ自身でさえも恐れおののいたのです。

“And so terrible was the sight, that Moses said, I exceedingly fear and quake.” (Hebrews 12:21, KJV)

「その光景があまりにも恐ろしかったので、モーセは『わたしは恐れおののく』と言った。」(ヘブル 12:21)

42 民はこう言いました。

「神が私たちに語らないようにしてください。さもなければ私たちは死にます。モーセが私たちに語ってください。神ご自身が語らないようにしてください。」

そして、たとえ獣であっても、その山に触れたならば、必ず槍で突き刺されなければならなかったのです。そうです、殺されなければならなかったのです。なぜなら、そこは聖なる場所であり、神がその上におられたからです。

“And if so much as a beast touch the mountain, it shall be stoned, or thrust through with a dart.” (Hebrews 12:20, KJV)

「もし獣でさえその山に触れるなら、石で打ち殺されるか、槍で刺し殺されなければならない。」(ヘブル 12:20)

ここで神の愛を見てください。この事実は、私たちにリバイバルのために祈るべきだと気づかせるはずで

神はへりくだり、ご自身を段階的に現されました。

まず、神は火の柱の中に現れました。

次に、目に見える姿として現れたのは、御子キリスト・イエスにおいてでした。

神はおとめマリヤを覆い、彼女の胎内に血の細胞を創造されました。その血が神の御子を生み出し、神はキリストのうちにおられ、世を御自分と和解させられたのです。

“God was in Christ, reconciling the world unto himself.” (2 Corinthians 5:19, KJV)

「神はキリストにあって世を御自分と和解させられた。」(コリント第二 5:19)

43 イエスは言われました。

「わたしがそのわざをしているのではありません。わたしのうちにおられる父が、そのわざをなさるので

す。」

「わたしではありません。ただ、わたしは父が示されたことだけを行います。」

ある日、イエスが病人や足の不自由な人々が集まっている場所を通られたとき、ただ一人、前立腺の病か何かを患っていた人だけを癒されました。

人々はこう尋ねました。

「なぜ、残りの人たちも癒してあげないのですか？」

今日でも同じ批判があります。

「この人を癒したなら、あの人も癒してみなさい。そうすれば信じるのに。」

しかし主はこう言われました。

「父が先にわたしに示してくださらなければ、わたしは何も行いません。父が示されたことを、わたしはその通りに行きます。父がわたしのうちにおられ、父が語られることを、わたしは行うのです。」

これは地上におられた神でした。聖書はこう言います。

「その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。それは『神われらと共にいます』という意味である。」(マタイ1:23, KJV)

ここに、へりくだられた神が人と共におられる姿があります。

神は今や人の姿を取って来られ、さらに人に近づかれたのです。

44 さて、主はその血をお与えにならなければなりませんでした。

その血は混じりけのない血であり、人間の性的関係によってではなく、処女からお生まれになった血です。

そしてその血を、あなたや私のような性によって生まれた人間の心を清めるためにお与えになりました。

その血によって私たちの罪は清められ、神ご自身が第三の位格として、人の心に住まわれることが可能となったのです。

これは、神がご自分の被造物をあまりにも愛されたゆえです。

ああ、そのことを思うと、私の心は溶けてしまいます。

あの偉大なエホバが、そこに立って宇宙を創造された方が、すべてのものを造られた方が……。

マウント・パロマー天文台へ行き、その望遠鏡を覗けば、一億二千万光年もの距離の彼方に広がる世界を見ることができます。

その向こうには、さらに太陽系や無数の世界、他の太陽、月、星々があり、一億二千万光年を越えたさらに先にも、もっと多くの世界と月と星が存在しています。

45 そして、あのすべてを創造されたエホバなる神が、あなたや私の心に宿るためにご自身を低くされたのです。

その前に、神はまずご自分の道を示さねばなりませんでした。

律法と戒めを与え、その後愛を示し、そしてついには人の心の奥深くにまでご自身の道を切り開かれたのです。

今や、神は私たちの内におられます。

その通りです。

私たちは地上における神の御手です。

私たちは地上における神の御目です。

私たちは地上における神の福音です。

そして福音とは、単なる言葉を並べたものではありません。

言葉が現実となったものこそが福音です。

「福音は言葉だけでなく、聖霊の力と現れをもって来たのです。」

主はこう命じられました。

「全世界に出て行き、聖霊の力をすべての国々に示しなさい。」

ところが私たちは、その代わりに神学を教えることを始めてしまいました。

そして二千年が経った今でも、地球の三分の二はイエス・キリストのことを一度も聞いたことがないのです。

考えてみてください。

「それは異教の地の話だ」とあなたは言うかもしれません。

しかしそれは、ほとんどアメリカ合衆国の中でも同じなのです。

46 私の住んでいる場所のすぐ南にある、インディアナ州ニューオールバニーという小さな町で、3~4か月前に国勢調査が行われました。

人口はおよそ27,000人ですが、そのうちの3分の1か、あるいは4分の1の人々は、どこの教会にも所属しておらず、一度も教会の扉をくぐったことがないのです。

また、ボストンの分析を耳にしました。

そこでは、どれほど多くの子どもたちが非行少年として問題を抱えているか…。

私の個人的な友人であるアル・フェラー大尉は、FBIの幹部であり…

彼は私の集会で聖霊を受けた人です。

彼は2年間、私を追いかけ、私が何をしているのか確かめようとしていました。

そしてある夜、あの偉大なダラスでの集会にやって来て、その場に立ち、こう言ったのです。

「私の仕事は不正を取り締まることだ。

私は2年間彼を追い続けた。

これは不正などではない。

これは全能の神の力だ。」

47 そして翌日、彼が私を連れて行ってくれた射撃場でのことです。

彼はこう言いました。

「ブラナム兄弟…」

そして車を降り、その場に入り、こう宣言しました。

「私はここで聖霊を受けたい。

そして新しく生まれ変わりたい。」

——それがすべてです。

彼は、あと1年ほどで退職しますが、引退後は私と一緒に集会に行きたいと願っています。

これが若者の心の変化の一例です。

しかし実際には、このような若者たちが、何千人、いや何万人と、これまで一度も教会に行ったことがなく、



神について何も知らず、ただののしり言葉の中にその御名を聞いただけ…それが全てなのです。

そして忘れないでください——

これは異教の国の話ではありません。

これはアメリカ合衆国の話なのです。

48 そして、結びに入る前にこれを申し上げます。

私はこう信じています——

もし神が、最初に彼らに力を与え、こう言われた時に、

「この力を全世界で示しなさい。

わたしはあなたがたと共に、あなたがたのうちにいる。

だから行って…」

あの最初の教会は、なんと世界を揺り動かしたことでしょう。

最初の弟子たちの一巡だけで、世界はほとんどキリスト教化されたのです。

ところが、その後彼らはみなその道を離れてしまいました。

次の世代になると、組織化が始まり、

三代目の時代には暗黒時代へと入り、

ついにはカトリック教会が形成されました。

そこから神学(神学的体系)が築かれていき、

やがてマルティン・ルター、ジョン・ウエスレー、カルヴァン、ノックスらが現れました。

しかし、すべてが神学のみに基づくものとなってしまいました。

——そうです、それこそが問題なのです。

彼らは、神が最初にお命じになった地点に戻ることをしませんでした。

そして、神が絶対にしてはならないと言われたことを、

今やイエス・キリストの御名によって行っているのです。

神は、「世界を教育せよ」とは言われませんでした。

「福音を宣べ伝え、神の力を示せ」と命じられたのです。

49 そして、今日の私たちの教会の中では…

もしこれ(神が与えられた本来の力)を教会で始めようとすれば、どうなるでしょう？

——すぐに出口を示されるでしょう。わかりますか？

つまり、「マスターキー」こそが失われているものなのです。

それはまさに隅のかしら石であり、最初の建築者たちが建物を建て始めた時に置かれたものでした。

その石は、全世界から切り出されて集められたのです。

これで、なぜ私が超教派(インターデノミネーション)であるのか、お分かりいただけるでしょう。

あなたがたの中にも、石工(メーソン)やその作業工程をご存じの方がいるでしょう。

彼らは石を切り出してヨッパに運び、そこから牛車でレバノンの高い杉を運び出しました。

それを切り整え、エルサレムまで運んだのです。

そして、それらの石や材木がエルサレムの外に積み上げられたとき――

四十年間、のこぎりの音も、金槌の音も一切響くことはありませんでした。

50 さて、こちらには、このように切られた石があり、あちらには別の方向に切られた石があり、さらに別の形に切られた石がありました。

しかし、どの石もそれぞれがぴたりと収まる場所を持っていたのです。

私は、神を信じる人々もまさに同じだと思います。

私たち一人ひとりには、この建物(神の御業)において与えられた位置があります。

私たちは互いに全く同じではないかもしれませんが、

新しく生まれ変わったクリスチャンは皆、この建物の中に置かれるべき場所を持っているのです。

さて、建築者たちが工事を進めていくと、ある不思議な形をした石に出会いました。

彼らは言いました。

「これは使えない。この石は役に立たない。こんなのは変な石だ」

そして、その石を雑草の茂る片隅に投げ捨ててしまいました。

彼らはそのまま建物を建て続け、さらに建て続けましたが――

やがて、ある段階まで来たとき、それ以上進むことができなくなりました。

工事は行き詰まり、どうしても前に進めなくなったのです。

そして、そのとき分かったのです。

彼らが投げ捨てたあの石こそが、「かしら石(礎石)」だったということ。

今日の状況もまさにそれと同じです、兄弟姉妹。

私たちは神が与えた「かしら石」の代わりに、

神学、学問、教育を取ってしまったのです。

51 教育は素晴らしいものです。

しかし――それが福音にとってこれまでで最も大きな妨げになってきたのも事実です。

これは本当です。教育こそが、福音の最大の妨害物となってきたのです。

誤解しないでください。

私は、皆さんが無知であれと言っているのではありません。

無知である必要はありません。

しかし、兄弟よ、人々はすべてを教育や神学に置いてしまいました。

そして、その結果がどうなったかをご覧ください――

彼らはイエス・キリストの復活の証拠を一つも示すことができないのです。

それは、イスラム教徒と何ら変わりません。

ムハンマドの信者たちがあなたと面と向かって議論を挑んできても、同じような状態です。少し前のこと、スーダン宣教団のドクター・リードヘッドが聖霊のバプテスマを受けました。素晴らしい人物です。

彼は私の家に立ち、こう言いました。

「ブラナム兄弟……」

彼は学位に次ぐ学位を持っていました。

そしてこう続けたのです。

「これまでの教師たちは間違っていたのでしょうか？」

彼は、いわゆる「ホーリー・ローラー」と呼ばれる集会にも行ったことがありました。

そして言いました。

「私はこれまで見てきたこと、そして私が持っているあらゆる学位のことを考えると……」

私の心は神を求めて飢えているのです」

そうです。これこそが、原理主義の最高位に立つ人の心の叫びです。

「今、私の心は神を求めて飢え渴いているのです」

そして彼はこう尋ねました。

「信じた後に聖霊を受けるといことは本当にあるのですか？」(テープ空白部分)

——そうです。それは本当です。

52 そして仏陀を見てみなさい。

仏陀は二千三百年前に亡くなりました——中国の偉大な宗教家です。

そして、彼が死ぬ前にこう言いました。

「世の終わりが来る前に、愛の神が……」

——愛の神ですよ。独裁者のような神ではなく、愛の神です——

「愛の神がそのしもべたち、すなわち預言者たちをここに遣わすだろう。」

そして彼らは、足跡を残さない方法でやって来るだろう」

……飛行機によって、ということです。

ほら、わかりますか？ わかりますか？ わかりますか？

彼らはほんのわずかな真理のきざしを持っていましたが、形はあってもその力を否定していたのです。

覚えておいてください——イエス・キリストの血こそが唯一の救いの道なのです。

さて、このときムスリムの一人がリードヘッド博士と話をしていました。

彼はこう言いました。

「もし……」

——そしてこう続けたのです。

「あなたは、あなたの死んだ預言者ムハンマドを捨てて、

私たちが持っているよみがえられた主イエスを受け入れようとはしないのですか？」

53 そして、そのムスリムは賢く、抜け目なくこう言いました。

「ご親切な方よ、あなたのよみがえられた主イエスが、私の死んだ預言者よりも、私に何をしてくれると  
いうのですか？」

彼は言いました。「それはですね、私たちには慰めがあります」

するとムスリムは答えました。

「私たちにもあります」

彼はまた言いました。

「私たちには喜びと幸せがあります」

ムスリムは言いました。「私たちにもあります。」

あなたがたは何について喜びと幸せを持っているのですか？」

彼は言いました。

「それは……主が再び来られるからです」

ムスリムは答えました。

「私たちの預言者も同じです」

そしてこう続けました。

「あなたがたの預言者イエスは、死後のいのちを約束しました。

私たちの預言者ムハンマドも、同じく死後のいのちを約束しました。

だから私たちも喜んでいるのです。

ですから、今あなたの主イエスで私に見せられるもので、

私の死んだ預言者では示せないことを、

ひとつでも見せてください。

あなたがたが持っていて、私たちが持っていないものを、

ひとつでも見せてください。

それができないなら、私にその説教をしに来ないでください」

——そして、その男は正しかったのです。

54 そして彼はリードヘッド博士に向き直って言いました。

「聞きなさい、先生。あなたがたは、

イエスが死からよみがえったと言いますね」

「もし本当にイエスが死からよみがえったのなら……。」

そして、彼が『わたしのする業を、あなたがたも行う』

と言われたのなら、さらに信じる者たちやあなたがた教師たちに

大きなしるしを約束されたのなら——その約束されたしるしを、

あなたがたが行うのを見せてください。そうすれば、  
私は彼が死からよみがえったと信じましょう」  
そしてこう言いました。  
「ああ、まあ、私たちは世界中で福音を宣べ伝えています」  
すると彼は答えました。  
「私たちも同じです」  
そして続けました。  
「では、彼が約束された業を実際に行うのを見せてください」  
「いいですか、あなたがたは二千年も時間を持っていました。  
それなのに、私たちは今なお、この世で最大の宗教を持っています」  
そうです。ムスリムは世界最大の宗教人口を誇ります。  
キリスト教は約三位です。  
彼はさらに言いました。  
「そして、世界の三分の二は、あなたがたのよみがえられた  
主イエスのことを何も知りません」  
「もし私たちのムハンマドが死からよみがえったなら、  
世界中がそのことを知るでしょう」  
——その通りです。

- 55 さて、リードヘッド博士は自分が論破されたと言いました。  
そして実際にそうだったのです。  
この出来事が、彼を神への渴望へと導きました。  
そして兄弟姉妹の皆さん、今夜私はここでこう申し上げます。  
主イエス・キリストは死からよみがえられました。  
彼は今日も私たちの間に生きておられ、かつてご自身が  
約束されたとおりのことを、まったくその通りに行っておられます。  
彼は今も同じよみがえられた主イエスです。  
もし彼がそうなさるなら——それは、私によってではなく、  
ただ主の主権的な恵みによるのです。  
私は、ここに座っている誰と同じように、ただの彼のしもべです。  
それはクリスチャンである小さな男の子であっても、  
小さな女の子であっても、誰であっても同じです。  
誰であろうと関係ありません。  
神の国には「偉い人」も「小さな人」もいません。

私たちは皆、ただ神の恵みによって神の国に入れられているのです。  
それだけです。

そこには「大きい」も「小さい」もありません。

ただ、誰かはこの務めを担い、別の誰かは別の務めを担っている——  
それだけのことです。

56 私は、たしかチャールズ・G・フィニだったと思いましたが——

その時代の最も偉大な伝道者の一人であり、

回心した弁護士——のことは読んだことがあります。

彼がこういう話をしていました。

ある老人が結核で死の床にありました。

その老人は死ぬ前、うつ伏せになって泣きながら祈り続けていました。

そして顔を上げてはこう言うのです。

「ある町のために、信仰の祈りを捧げることができた。

神はその町にリバイバルを与えてくださるだろう。」

彼はそのようにして、およそ三十の町の名前を記しました。

そして、その老人が亡くなった後、フィニーがその未亡人を訪ねた際、  
その記録を見つけました。

驚くことに、その町々では、老人が言った通りのリバイバルが  
次々と起こったのです。

なぜでしょうか？

それは、ただ一人の魂が、神の御前で真剣に祈り求めることが、  
世の中のあらゆる神学校や学問よりも、リバイバルをもたらす力  
となったからです。

その一人が、神に届くまで祈り通したのです。

57 皆さんにお話します。

かつて何年も前、アフリカで大きな東方のリバイバルが  
起こった時のことです。

そこではホットtentツト族など、多くの人々の間に  
リバイバルが広がりました。

しかし、そのリバイバルの原因は、彼らの教えや大きな神学校か  
ら生まれたものではありません。

それは、辺鄙な小さな小屋の中で暮らす、一人の貧しく、  
読み書きもできない、学問のない有色人の男性から始まったのです。

彼は昼も夜も、地面に顔を伏せ、塵の中で神に祈り続けました。

そして神はリバイバルを送られ、それは東アフリカから

北アフリカ全域を神の国に揺り動かしました。

それは素晴らしいリバイバルでした。

しかし、それを台無しにしたのは何だったのでしょうか。

やがて、イギリスやその他の地域から教師たちがやって来て、

そこで神学を教え始め、神の力から離れ、形式的な事柄に

流れていったのです。

そして、すべてが混乱に陥りました。

これはまさに、アメリカ合衆国で起こっていることと同じです。

ですから、兄弟たち、私たちは神に——生ける神に、

よみがえられたお方に——立ち返らなければなりません。

その方は愛そのものであり、特定の教派をえこひいきなさらず、

同時にすべての教派をある意味で尊重されます。

そして、ご自分の造られた地上のすべての被造物を愛し、

人の心の中にまでご自身を住ませようと、

あらゆることをしてくださっているのです。

58 神は、荒野での青銅の蛇の時のように、備えをしてくださいました。

神は私たちが天と地の間の旅路にある間に必要とするすべてを

満たすために、イエスを備えてくださったのです。

イエス・キリストは、神の完全にして十分な犠牲です。

今夜、あなたが必要としているすべては、

あなたの教会の中にはありません。

それはキリストの中にあります。

そこにこそ答えがあります。

それは、あなたの教育の中にも、あなたの神学にも、

あなたの信条にもありません。

すべてはイエス・キリストの中にあります。

ですから、単純で、謙遜で、愛に満ちた信仰をもって

キリストを仰ぎ見て、こう祈ってください。

「神よ、私のすべての自己中心をきよめ、あらゆる不純なもの

を取り去ってください。そして今日から、全くあなたのもの

として生きる者としてください。」

その時、神があなたのために何をしてくださるかをご覧ください。

神があなたを祝福してくださるように——これが私の祈りです。

では、頭を垂れましょう。

私たちの優しい天の父よ、

今夜、まずこの大都市のために祈ります。

その全体を見渡し、また全域の都市圏を見つめながら、

私は罪が満ちている光景を見えています。

まるで、ソドムに御使いたちが下ってきて、その悪が本当か

どうかを確かめた時のようです。

主よ、私たちは何かが非常に近づいていることを知っています。

どうかシカゴのために祈ります、神よ。

そして信じます——この街のあちこちで、真の信者たちが小さく集まり、

礼拝をしているその集まりこそが、今まさに神の怒りと

裁きが注がれることを引き留めている唯一の理由であることを。

59 そして私は、今まさにロシアという国で会議に臨んでいる

我が国の大統領のことを思います。

彼らは、この地上の命をほとんど残さないほどに破壊できる武器を

持っており、それを夜明け前にもでも実行できる力を持っていることを、

私は知っています。

その時、私は神に問いかけます——

「何が彼らをそれを実行することから引き留めているのか？」

それは、まだ正しい人々が祈っているからです。

ああ神よ、憐れんでください。父よ、どうか憐れみをお与えください。

どうか今夜、この愛らしい小さな教会で——

まるで灯台のように輝くこの場所で——心と命と持てるすべてを

あなたに差し出し、今この瞬間、自由にその命をあなたのため

に捧げようとする人々の群れを祝福してください。

彼らはあなたを信じています。

ああ父よ、どうか今夜、彼らに大いなる力を注いでください。

大いなる信仰の力を注いでください。

今夜、あなたの御心に反するあらゆる思いを、

その意識からも潜在意識からも取り去ってください。

父よ、それを取り除いてください。



今、私たちと共にいてください。

60 主よ、どうか私を助けてください。

私はここに立つにふさわしくない者、ただの人間です。

いつか私はあなたの御前に立ち、

私が語ったすべての言葉と、私の心をよぎったすべての思いについて、

申し開きをしなければならないことを知っています。

神よ、どうか私を清め、あなたの御手の中に保ってください。

そうして、私が同胞に語ることをお許してください。

主よ、私は彼らを愛しています。

そして、彼らすべてが神の大いなる一致の中に入り、

間もなく来る偉大な千年王国へと導き入れられることを願っています。

私はここにいるすべての人のために祈ります。

そして今夜ここにおられる病める者たちを祝福してください、父よ。

ここには病を抱えた方々が多く座っています。

私は知っています——あなたが地上におられたとき、

あなたがなされた業は、あなたを信じる者たちによっても行われる、

とおっしゃったことを。

どうか今夜、彼をお送りください、ああ神よ。

そして、彼がその力をもってここに来られ、

この大きな会衆の中に、そしてすべての信じる者の心の中に、

ご自身を現してください。

そして、しるしと不思議によってご自身を現されますように。

今夜、ここから去るときには、

ここにいるすべての人が、誰一人として病を持ったままではなく、

癒されて家路につくことができますように。

どうか、主よ、それをお与えください。

61 その信仰がただその条件に達すれば、それは成し遂げられます。

なぜなら、あなたはこう言われたからです——

「あなたが心に信じたとおりに、そのようになるであろう」と。

主よ、どうか今夜、それをお与えください。

そして、ここ全体の空気を——

一つの魂、一つの心、一つの一致、一つの目的——

そのような創造的な雰囲気にしてください。

主よ、どうかそれをお与えください。

この祈りを、あなたの愛する御子イエス・キリストの御名によってお捧げします。

アーメン。

私の心は、そのような雰囲気を見ることを、深く求めています。

分かりますか?—雰囲気こそがそれをもたらすのです。

もしここにいる全員が完全な一致に達すれば、それは成し遂げられるのです。

たとえば、自然の方法で卵をかえすには、雌鳥の下に置けばかえります。

それは雰囲気—温かさ—があるからです。

しかし、それを毛布でくるんで温めても、やはりかえります。

孵卵器に入れても、やはりかえります。

つまり、結果をもたらすのは「雰囲気」なのです。

62 もし私たちが今、すべての疑いを自分から取り除き、

あらゆるものを押しつけることができれば—。

ここには、おそらく余命の短い方々もおられるでしょう。

心臓病などの病を抱えておられる方もおられるはずです。

そして、心臓病というのは、私たちが今まであまり

有効な手立てを見いだせなかった病のひとつです。

ですから、ただ神に祈り、一つ心になってこう言いましょう—

「天の父よ…」

そうすれば、その栄光に満ちた雰囲気がここに静かに降りてきて、

聖霊がただちにここに入り込み、私たちのために驚くべきこと

をしてくださいます。

どうか主がそれをお与えくださいますように。

さて、祈りのカードが何枚かあります。

私たちは祈りのカードを持っている人々を並ばせます。

カードの片面には住所などが記され、もう一方には番号があります。

そして、私にこう告げられました—

「今呼び出すのは、F、F番です」

(失礼、忘れてしまいました。)

はい、祈りのカードF番です。

あまり多くは一度に呼び出せません。

どうやって呼び出しますか、ボーズ兄弟?

ここを通しますか?

——分かりました。では、そうしましょう。

63 では、まず最初に——そうですね、10人から15人ほど並びましょう。

こちらに運ばれてこなければならぬような、足の不自由な方は

見当たりませんので、

とりあえず最初の10人にしましょう。

F-1番? 祈りのカードF-1を持っている方は?

1番? 祈りのカード1番、2番、3番、4番、5番、6番、7番、8番、

9番、10番?

はい、ではまずその方々はお並びください。

10番までそろいましたか?

では、11番、12番、13番……

[テープの空白部分]

皆さんご存知でしょうか?

私は、自分を「癒し主」と主張しているわけではありません。

私は癒し主ではありません。

私は、あなたがたの兄弟です。

癒し主は神ご自身です。

私はただ、病める人のために祈るだけです。

しかし、神は教会の中に、まず使徒を、

次に預言者を、そして教師を、

その後に伝道者を置かれました。

そして、癒しの賜物、奇跡、

さまざまな種類の異言、異言の解き明かし——

これらすべての賜物は、

聖書によれば、教会を完全に整えるために与えられたものです。

そうでしょう?

これは、神ご自身が教会に置かれたのです。

64 たとえば——もし神が人間を耳のある存在として造られたなら、

神は耳のない人間を造って、その人を聾(ろう)

にしておくことなどお望みにはなりません。

神は人に口を与えられました。

ですから、神が人を口なしで造られることは決してありません。

鼻もそうです。

それらはみな、からだの部分だからです。

そして、私の手が——神がこの手を私の手として造られたことが  
確かなように、

神は教会の中に、癒しの賜物を持つ者を置かれました。

もちろん、それは「信仰の祈り」です。

また、神はその中に教師や伝道者となる者も置かれました。

ところが、私たちはどうしたのでしょうか？

そのほかのからだの部分をすべて取り除いてしまい、

ただこう言ったのです——

「いや！ 教師と伝道者、それだけがすべてだ」と。

「教師と伝道者だけだ」。

そして私たちは、預言者がいることを見落とし、

使徒がいることを見落とし、

癒しの賜物があること、異言を語ること、

異言の解き明かし、奇跡の働きがあることを見落としてしまいました。

しかし、それらは私の目や鼻と同じように、

からだの中で必要なものとして備えられているのです。

パウロも第一コリントでそう言っていませんでしたか？

そうです、すべてはからだの中で共に働くのです。

65 さて、この賜物というものは——

あなたは生まれつきそれを持ってこの世に生まれて来るのです。

それは神の主権によって与えられます。

私にとってこの世での務めは、「幻を見る」ということでした。

それについて、人々が「預言的だ」とか、あるいは

「靈感の下でのことだ」と言うのを聞いたことがあります。

そういうふうにする人もいますが、実際にはこれは

「潜在意識」の働きなのです。

以前にも皆さんに説明しましたように、それはそういうものです。

あなたは、誰かがあなたに夢を見させない限り、

夢を見ることはできません。

神がそうなさるのです。

潜在意識の中で、人によっては夢を全く見ない人もいます。

それは仕方のないことです。

その人は潜在意識に戻ることがないからです。

しかし、あなたの潜在意識が——

夢の中であなたがどこかにいて、それを覚えているとき、

たとえば何年も前に見た夢を今でも覚えていることはありますか？

では、その夢を見たとき、あなたの中のどの部分が

そこにいたのでしょうか？

それが今も記憶として残っているのです。

そうです——あなたの中のどこかの部分が、そこに存在していたのです。

66 さて、「先見者(シアー)」や「預言者」という者は、

その潜在意識が後ろ(深く眠る領域)にあるわけでもなく、

またここ(意識の表層)にあるわけでもありません。

それは、ちょうどこの場所——中間にあります。

眠るわけではなく、ただ一つの状態からもう一つの状態へと

切り替わるだけです。

地上におられたとき、イエス・キリストもまさに

同じことをなさいました。

そうですね？

主は会衆の中で、人々の思いを見抜かれました。そうでしょう？

ピリポが主のもとに来ました。

主はこう言われました。

「ほら、あそこに善い人——」

今日の言い方をすれば「クリスチャン、信じる者」がいます。

するとその人が言いました。

「先生(ラビ)よ、いつ私をご存じになったのですか？」

——「ラビ」は「尊敬される教師」という意味です。

主は答えて言われました。

「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたが木の下にいるのを見た。」

彼は答えて言いました。

「あなたこそ神の子、イスラエルの王です。」

そうですね？

67 さて、イエスはこう言われました。

「わたしがしているわざを、あなたがたもまた行うであらう。」

またイエスはこうも言われました。

「わたしはいま自分では何のいやもしない。ただ、  
わたしの父がなさることだけを行う。父がわたしに示されること、  
それを行うのだ。」

そして今、主は死人の中からよみがえられ、御自分の教会のうちに  
生きておられます。

ちょうど父が——…

わかりますか？聖書の流れと文脈が見えてきますか？

「ちょうど父が御心を示されるように」なのです。

ここに一人の婦人が立っています。

私の知る限り、私はこの方を生まれてこのかた見たことがありません。

私にとって全くの見知らぬ方です。

この会衆の中で、私が知っているのは二、三人だけです。

たしか、この前列に座っておられるのはムーア兄弟の姉妹だと思います。

お顔を覚えています。

それから、先ほどビーラー兄弟をこちらで見かけました。

それから、ジョン・ライアン兄弟、そしてあそこにおられるのは  
ライアン姉妹でしょう。

私の妻もこの会場のどこかにいるはずですが、まだお会いしていません。

おそらく…そうだと思います。

それ以外で私が知っている方は——ああ、そうでした。

ザイオン・シティから来られたシムズ兄弟ご夫妻もおられますね。

あそこに見えます。ジョイス姉妹とシムズ兄弟です。

68 さて、私が知っていて、見えているのは今のところそれだけです。

ああ、いや…あちらの後方にリー博士が座っておられるのが見えます。

さきほど集会にもおられた方です。

リー兄弟、お会いするのはこれが初めてです。

神の祝福がありますように。

ボーズ兄弟、あなたは彼とお会いになりましたか？

リー博士、よろしければ立ち上がってご紹介させてください。

この方は、先ごろ私がフロリダ州マイアミで奉仕をともにした  
バプテスト派の兄弟の一人です。

私はちょうどそこで、すばらしいキャンペーンを終えたばかりでした。

さて…私は妻を探していました。

あなたはどこにいますか、ハニー？

手を挙げてください。

今ちょっと気になってしまったのです。

ええと…ああ、そうですか。はい、よかった。

今ふと頭に浮かんだだけで、他のことを考えてはいけないのです。

神の御前に立つときは、心をまっすぐ、完全に正常な状態にしなければなりません。

ああ、なるほど…彼女は小柄で、ずっと後ろの隅に座っていたのですね。

それで私からは見えなかったわけです。

69 では、皆さんは祈りの中にいてください。そして祈ってください。

さて、皆さん一人ひとりにお尋ねしたいことがあります。

まず、このこちらのご婦人から始めましょう。

私たちはお互いに見知らぬ者同士ですね、奥様？

私たちはお互いのことを知りませんね。

はい、よろしい。

では、この見知らぬご婦人と…。

今日は土曜日ですから、少しゆっくり進めましょう。

明日は日曜学校に行くまで、早く起きる必要はありませんから。

さて、このご婦人について…。

もしイエス・キリスト、神の御子が十字架にかけられ、栄光を受け、天の威光の右に座しておられなかったとしたら、どうでしょうか。

もし今この場に、ノルウェーの人々が私にくださったこのスーツを着て立っておられたとしたら…。

そして、このご婦人をご覧になっていたとしたら…。

そのとき、主がなさることができるのは、ただ一つ…

70 さて、もしこのご婦人が病気であったとしても、

私にはそれは分かりません。

彼女が病気であるかどうか、また何が原因なのかは、神だけがご存知です。

もし神がイエスに彼女の問題を啓示なさるなら、

たとえ彼女が隠そうとしても、その人生をイエス・キリストから隠すことはできません。

そうではありませんか？

しかし、もし神が啓示なさらなければ、

イエスもそれを知ることはありません。

正しいですか？

主は、ただ御父が示されたことだけを行われました。

思い出してください。

兵士たちは主の顔に布をかぶせ、頭を打ち叩き、

「お前が預言者なら、誰が叩いたのか言ってみろ」と言いました。

しかし、主は口をお開きになりませんでした。

ヘロデは「何か奇跡を行って、私に見せてみろ」と言いましたが、

主は人々を喜ばせるための見世物のようなことはなさらず、

ただ御父がなさるよう命じられたことだけを行われたのです。

71 では、もし主がここに立っておられるとしたら、

彼女の癒しについてはどうでしょうか。

彼女の病気…イエス・キリストが約千九百年前に彼女のため

に死なれたとき、すでに彼女を癒されたと信じる方は

どれくらいいらっしゃいますか？

それは、あなたが福音を正しく教えられてきた証拠です。

そしてもし彼女が罪人であったなら、キリストは約千九百年前に

死なれたとき、すでに彼女を救われたのです。そうではありませんか？

主は今、あなたを救いに降りて来られるのではありません。あなたは、

主がすでに成し遂げられた救いを受け入れるだけです。

癒しも同じで、主がすでに成し遂げられた癒しを受け入れるのです。

では、主は何をなさるでしょうか？

彼女がその癒しを受け入れることができるように、

その信仰を引き上げるための何かをなさるでしょう。

そうではありませんか？ それは聖書的でしょうか？

理にかなっていますか？ 聖書の御言葉ですか？

—そうです。神があなたを祝福されますように。

72 さて、私は主に祈ります。そして、私が…おそらく生まれてから三分ほどのとき、母が言うには、光が私の上に立ったそうです。私の人生で最も古い記憶の一つは幻であり、それ以来ずっとそれは私と共にあります。

もし、この集会在終わる前に、私の人生について申し開きをするために神の御前に立たなければならないとしても、今、天からご覧になっている神は、これが真実であることをご存じです。主は幻を示され、その光が降ってくるのです。そして、その光の写真も撮られました。皆さんの多くはそれをご覧になったことでしょう。それはワシントンD.C.の宗教美術のホールに展示されています。

今夜も、主が恵みを与え、私を助けてくださいますように。私の心の願いは、あなたがたが神の御子イエ



ス・キリストをお見せするお手伝いをすることです。御霊と御言葉によって、そして今私の上にある油注ぎによって、私はここにいるすべての魂を、イエス・キリストの御名において、私の権威のもとに置きます。

73 では、こちらに来てください、婦人。

ほんの少しの間、お話ししたいのです。これは単に…ご覧のとおり、私たちは二人の人間であり、あなたには魂があり、私にも魂があります。そして、いつの日か私たちは共に神の御前に立ち、私たちの人生について申し開きをしなければなりません。そのときに…私は、できる限り良いものをあなたのために願います。あなたもそうでしょうか？ ええ、きっとそうです。

では、もし私たちが初対面であり、あなたの身に起こっていることが何であれ、ここで神が私にそれを啓示してくださるなら、それは——私が真理を語り、正しく主を代表している——ということ、これだけでも信じられるでしょうか？（「はい」）

私たちはこれまで会ったことがありません。そして、もし私がそれを…ある方法で示すことができるなら、そこには、あなたの人生を知っている何らかの霊、何らかの力がここにあることが分かるでしょう。私はクリスチャンであり、神を信じ、聖霊を受けています。そして、もし神がそれを啓示してくださるなら、あなたはその癒しを受け入れるでしょう。

74 では、それはちょうど、ピリポが来たとき、または——

たとえばあなたが有色人種の婦人で、私が白人であるという

——その状況と全く同じ霊によるものです。あの日、サマリヤの女がイエスのもとに来たときと全く同じです。

彼女にイエスはこう言われました。「わたしに水を飲ませなさい。」

その当時も、今と同じように人種的な隔たりがありました。

彼女は言いました。「あなたはユダヤ人なのに、

私のようなサマリヤの女にそんなことを頼むのは普通ではありません。」

するとイエスは言われました。「もしあなたが、

あなたに語りかけている方が誰であるかを知っていたなら…」

彼女は、隔たりのない方、すべてを一つにされる方と

話していたのです。イエスは言われました。

「もしあなたが知っていたなら…」

そしてその後、イエスはまっすぐに彼女の問題を指摘されました。

彼女は恐ろしい罪の中にいましたが、それでも主は彼女に

信じる者になってほしい、救われてほしいと願っておられたのです。

75 さて、彼は今も同じ主イエスですよね？ [「はい」]彼は同じ主イエスです。さて、あなたはあなた自身のためにここにいるわけではありません。あなたは…病院にいる男性のためにここから来ました。そして彼は非常に真剣です。彼は持っている私は信じています…今その側に何人かの医者がいます。そしてそれはTBです。その男は結核を持っています、そしてそれはあなたの夫ですよね？ [「はい。」]そしてあなたは彼の代わりに立ちます。[「はい」]さて、父なる神様、ここで夫のために立っている私たちの姉妹、今彼のベッドサイドにいる聖霊が…そして彼女が彼を見ると、彼は何かが起こったことを目撃することができますようにちょうどこの時間に、そして彼が元気になって家に帰ることができますように。私はそれをイエス・キリストの名によって尋ねます。アーメン。神はあなたを祝福します、姉妹。[「ありがとう、イエス様。」]主が彼の祝福を加えてくださいますように。

あなたは私たちの主イエス・キリストを信じますか？ さて、彼が彼の偉大で、全能で、祝福された、最も

神聖な力を送ってくださいますように。私は…彼が彼の祝福を皆に送ってくださいますように。ここにいるすべての人は、現時点で信じるべきです。彼らは信仰を持つべきです。あります…ちょっと待ってください。

76 あなたは泣いておられますね、あちらに座っている、小さな帽子をかぶったご婦人——黒人のご婦人。どうされましたか…ああ、あなたにも病気の愛する方がいらっしゃるのですね。それは男性で…私が思うに、お父様でしょうか？そうですね？最近、手術を受けられましたね…前立腺の手術ではありませんか？そうですね？では、お帰りになったらその方に手を置いてください。そして、イエス・キリストの御名によって癒されますように。神様があなたを祝福されますように。神を信じなさい。心の底から信じなさい。疑ってははいけません。ただ信じなさい。

さて、こんにちは、兄弟。おそらく私たちは互いに見知らぬ者同士でしょう。私はこの人生であなたにお会いしたことはありません。しかし、私たち二人とも、主イエス・キリストが養ってくださった者です。今日、私たちがいるのはすべて主の主権的な恵みによります。

そして今、あなたと私は見知らぬ者同士で、生涯で会ったこともなければ、知り合いでもありません。それでもあなたはこのプラットフォームに上がって来られた。ここには何かがおられるのです…もし主が私に恵みと御力を与えてくださるなら…。

ご存知のように、神の霊は必ず何かを通して現されなければなりません。かつては火の柱の中におられました。またある時は水の上に現れ、人々はそこに入って癒されました。そしてある時は鳩の姿で現れました。それから、イエス・キリストの中に現れました。そして主は、再びおいでになるその日まで、世界中の信じる者たちを通して現れると約束されたのです。

77 さて、主はその愛に満ちた憐れみによって、教会を立て上げるために、教会の中にさまざまな働きを置かれました。そして、ここであなたと私は二人の人間として出会いましたが、おそらくこれまで互いに会ったことはないでしょう。私はあなたに会った記憶はありません。おそらく会っていないと思います。そして、もしあなたが私を見たことがあったとしても、私はそれを知りませんし、あなたは集会か何かで見たことがあるかもしれません。[兄弟が「はい、あります」と答える] 以前に集会に来られたことがあるのですね。

さて、ひとつ確かなことは、あなたは信者だということです。それだけでなく、あなたは説教者でもあります。そうですね？[「アーメン」] ええ、その通りです。そして…小さな帽子をかぶった女性たちに関係する何かがありますね。それはメノナイトのことです。あなたはメノナイトの説教者ですね。そうですね？[「アーメン」] ええ、その通りです。そしてあなたは町の外から来られました。アイオワ州、アイオワシティから来られました。そうですね？[「そうです」] そしてあなたは…ヘルニアに苦しんでおられ、さらに直腸の病もあります。そうですね？[「その通りです」] あなたは私を神の預言者として信じますか？[「アーメン、アーメン」]

では祈りましょう。主よ、あなたの霊があなたのしもべの上であり、このような事柄を啓示して下さっているので、聖書に従って、今、私の手を、あなたの霊によって私の体が満たされているこの時に、兄弟の癒しのために置きます。どうか、病と苦しみの悪しき力がこの兄弟から離れますように。私はそれらに命じます。「彼を放せ」。イエス・キリストの御名によって、兄弟から出て行き、癒されますように。アーメン。神の祝福があなたの上にありますように、兄弟よ。行きなさい、そして癒されなさい。

78 さあ、祈りましょう。そして、心を尽くして神を信じましょう。今、注意深く見て、敬虔な心を保ち、祈り続けてください。心から信じるなら、神はあなたを癒してくださいます。そう信じますか？

ちょっとお待ちなさい、兄弟。そこに何か…ほんの少し、待ってください。そこに同情深い…全能の神はすべてをご存じであり、すべてを啓示し、すべてを正しくされます。私はあなたが癒されたと信じます。そこに…ですが、何か…ああ、それはそちらに座っているご婦人のことです。あなたも直腸の病がありますね、そうでしょうか？そうですね？ その男性がそばを通ったときに、不思議な感覚を感じませんでしたか？ そのとき、あなたも癒されたのです。神があなたを祝福されますように。神があなたを祝福されますように。兄弟、神があなたを祝福されますように。あなたは…癒されるでしょう。神の祝福を受けて行きなさい。

さあ、敬虔な心を保ちましょう。ご覧なさい、この会衆の中にいるあなたは、壇上に上がらなくてもよいのです。ここに並んでいる人々は、ただ聖霊が働いておられるためにここにいるだけです。あなたも、心から信じるだけでよいのです。そうすれば、神は他のすべてのことを成し遂げてくださいます。ただ、心も、魂も、思いも尽くして信仰を持ちなさい。

79 さて、こんにちは、ご婦人。あなたは私が神のしもべであると信じますか？私がこう尋ねるのには理由が

あります。ご存じの通り、ペテロとヨハネが「美しの門」と呼ばれる門を通り過ぎるときにこう言いました。「私たちを見なさい」と。そして、その人は二人の言葉に心を留めました。

主の御使いが私にこう告げられました。「もし人々にあなたを信じさせることができれば…」と。ちょうど、この牧師がここでこう言うのと同じです。「あなたは、私が神から遣わされた牧師であると信じますか?」

「はい、牧師先生、信じます」と答えるなら、彼はあなたを助けることができます。

しかし、もしあなたが彼を神の牧師だと信じなければ、彼はあなたを助けることはできません。わかりますか? 信じなければならぬのです。これが神の鍵、すなわち「信仰」です。それこそが唯一、鍵を開けるものです。そしてその信仰は、ここ(耳)から、ここ(心)へ、そしてここ(魂)へとやって来ます。神が語られることを耳で聞き、それを心で信じる時、結果がもたらされるのです。

80 あなたは…おそらく私たちはお互いに初対面でしょう。私の知る限り、私はあなたにこれまで会ったことがありません。しかし、あなたは…頭の調子が悪かったですね?あの、耳鳴りのようなゴーツという感覚が。そうですね?

今、私はあなたのそばに立っている若い女性を見ました。それは…何か…ああ、そうです。最初は、ここに座って祈っている若い女性かと思いました。でも見直すと…ああ、わかりました。彼女はあなたの娘さんです。そして、あなたは心配しておられます…ああ、はい。それは娘さんとそのご主人との間の離婚問題ですね。そしてそこには二人の小さな子どもがいる。そうですね?二人の小さな子どもです。離婚の件です。

そして、あなたのご主人もそこにおられます。彼は何かしようとしています…ああ、そうです。彼は酒をやめようとしているのです。そうですね?お酒をやめて、クリスチャンになろうとしているのです。

ああ、天の父よ、どうか憐れみをもって、私たちの願いをかなえてくださいますように。今晚、私の姉妹の悩みが取り除かれ、彼女が求めているすべてのことが与えられますように。ああ、憐れみ深き父よ、あなたが…(テープ上に空白あり)

81 私たちは見知らぬ者同士です…互いに知りませんが、神は私たちを知っておられます。姉妹よ、そのまま信じ続けなさい。そうすれば、すべての痛みは去ります。あなたは私を神のしもべと信じますか?

〔姉妹が「もちろんです」と答える〕

私もそう信じます。あなたはこの町に住んでいませんか?イリノイ州から来られたのですね。そうですね?〔「その通りです」〕

私は、あなたはイリノイ州シュリーブポートのような所から来られたと思いますが、そうですね?〔「はい」〕

あなたは主イエスを愛しておられますね?〔「もちろんです」〕

あなたのご主人のお名前はジェームズさんですね?〔「はい、そうです」〕ウェイトコフ…か何かのような…ああ、そうですね。ええ。あなたはとてもお悪い。けれども、それは骨にあります。医者、骨の中に腫瘍があると言ったと思いますが、そうですね?〔「はい」〕

あなたには、神以外に何もできることはありません。あなたは癒しを受け入れますか?〔「はい」〕

今、すべてをご存じで、すべてを語られる聖霊がここにおられると信じますか?私がこの油注ぎの下で、天の父にそのものを呪ってくださるようお願い、医者があなたを診て「もう癒されている」と分かるようになることを信じますか?さあ、こちらへ来てください。

82 憐れみ深い父よ、私は姉妹のために、神の御力による解放を祈ります。どうか今夜、この恐ろしい病から解き放たれますように。主よ、医者であるあなたのしもべたちには、もはや何もできません。けれども、あなたにはできます。

そして、あなたは私たちの内におられると約束され、「もし私たちがあなたのかたちに造られ、あなたの姿に似せられた者であるなら…」と言われました。あなたは創造主であり、その大いなる力によってあらゆるものを創造されました。あなたのようにできる者は他にはありません。

しかし、あなたは私たちには量りをもって御霊を与え、彼(キリスト)には限りなく御霊をお与えになりました。

そして、今ここにおられるあなたは、幻を創造し、それを聖霊の天的な雰囲気の中で成就されるお方です。私は神のしもべとして、この骨の構造を新しく創り直していただけるようお願い、この骨の中の腫瘍が今すぐに取り除かれるよう、姉妹の上に手を置きます。私は神の御子の代理として行います。

この病は呪われよ。そして、創造主が、私たちのこの姉妹に健やかな体を与えてくださいますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

さあ、姉妹よ、恐れてはいけません。ただ進みなさい。そして明日、あなたの証を書いて私に送ってください。神があなたを祝福されますように。では。

83 あなたは、そこに座っている間に心臓の病が去ったと思いますか？

神があなたを癒してくださると信じますか？

[兄弟:「信じます」]

そうですか? [「はい!」] こちらへ来てください。

全能の神よ、どうかこの人の上にあなたの祝福がとどまりますように。

サタンは、もしできるなら、この人を早すぎる墓へ送ろうとしています。

今、私はこの恐ろしい病を呪います。そして、ここにおられる創造主なる

あなたが創り出すことがおできになるように、どうかこの人が癒されます

ように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

神があなたを祝福されますように、兄弟よ。お行きなさい…

神があなたを祝福されますように。あなたのその態度こそが、

癒しをもたらすのです。神があなたを祝福されますように。

ご覧なさい、癒しはあなたの態度次第なのです。

信じることができるなら。

私はあなたに伝えたいことがあります… よく覚えておいてください。

これは、これから起ころうとしていることの影にすぎません。

私は神の御霊を通して、今こう言っています。

私はこの数年間、それを感じてきました。そして数夜前、

私はそれが成就するのを見ました。まもなく何かが起こります。

そして神は癒されます。

84 さあ、姉妹、こちらに来てください。そして、この腫瘍が取り除かれ、

あなたが食事をできるように、神に願いましやう。

天と地を創られた神よ、私はこの姉妹の上に手を置きます。

天の父よ、私は全力を尽くして、あなたをこの人々に正しく

お伝えしようとしてまいりました。

そして今、幻を見せ、霊を創造し、命を与えることのできる

あなたがおられます。私たちは、ただあなたの力によって生き、動き、存在しています。

私は今、この死にかけている女性のために、無益な僕の祈りをお受けくださいますようにと願います。

サタンはこの女性の胃に腫瘍を置くという悪事を働きました。しかし、あなたは今、それを取り除くためにここにおられます。私はこの腫瘍を呪います。

主よ、もしあなたの僕が御前において恵みを得ているならば、今この瞬間からこの腫瘍が死に絶えますように。

私は主イエス・キリストの御名によってこれを呪います。

その腫瘍が縮み、消え去りますように。アーメン。

神があなたを祝福されますように、姉妹よ。

これこそが癒しを受け取る方法です。ただ行って、信じ、神に信頼し続けてください。

85 もし私が主にお願ひしたら、あなたは癒されると信じますか？

では、心を尽くして信じてください。

さあ、ではほんの少し、頭を垂れてください。

憐れみ深い父よ、どうか哀れみと恵みをもってこの方を顧みてください。

サタンが奪ったものを、この姉妹に回復させてください。

主よ、これをお与えくださいますか。

主イエス・キリストの御名によって、この呪いが離れ去りますように。

アーメン。

さあ、あなたはもう癒されることができると、今、私の言葉をはっきり聞き取れますね？

「はい」——そうです。

すべてがあなたから去りました。あなたの視力の衰えも、聴力も、すべてです。

そして、あなたを長い間悩ませてきた古い病も、今すべてなくなりました。

もう行って、癒されなさい。神があなたを祝福されますように。

86 さあ、姉妹、どうぞこちらへ。あなたは心を尽くして信じますか？

そうですか。

もし天の父が、あなたの癒しのために御子をお遣わしになり、御子を死に至らせられた後、さらに御自身

をこの教会の中に再び現し、あなたに御自身のいのちを再び現すことを示してくださるなら、あなたはきっとそれを受け入れ、癒されたいと願うはずですね？

もしそれを信じるなら、その貧血の状態は去ります。信じますか？——では、それは去ります。

神があなたを祝福されますように。神の平安があなたと共にありますように。

愛する父よ、

あなたは主イエスを遣わし、病人と苦しむ者を癒して下さったお方です。どうかこの姉妹を憐れみ、助け、主イエス・キリストの御名によって癒してください。アーメン。

神があなたを祝福されますように、姉妹。

心を尽くして信じて行きなさい、そうすれば癒されます。

ただ神を信じなさい。神は必ずあなたのためにそれを成し遂げられます。

私の考えでは、この会場にいるすべての人が今すぐにでも癒されるはずだと思います。

本当にそうなのです。

87 ここに、先ほど祝福を受けたと思われる一人の姉妹の上に、まだ霊が留まっています。帽子をかぶっておられる姉妹です。まだ何かを求めておられますね……ああ、あなたは神とのより深い歩みを求めておられるのですね。そうではありませんか？ もっと神と親しく歩みたいと願っておられるのですね。そうでしょう？ それが今あなたが思っていたことです。

姉妹、あなたは本当に信じる者です。どうぞこのまま進んでください。神があなたを祝福されます。あなたはそれを受けるでしょう。

あなたは、心臓の病が去り、良くなると信じますか？ もし私が主の御名によってあなたを祝福すれば、それが成し遂げられると信じますか？

父よ、この哀れな母のために、私は主イエスの御名によって祈ります。

今この夜、彼女はここに立ち、私たちの民を最も多く死に至らしめる恐ろしい病に苦しんでいます。主よ、どうか憐れんでください。私は、あの丘を登られたときのことを思い起こします——その御背に十字架が食い込み、血がにじみ出て、御体を伝い流れ落ちました。あなたのか弱い御体は、その重荷の下に倒られました。そこへシモンが来て、あなたの十字架を担ぐのを助けました。

主よ、今夜ここにいるこれらの子らをご覧ください。この姉妹もここに立ち、少しでも長く地上であなたの栄光を表すために、生き続ける信仰の領域に踏み出そうとしています。主よ、それをお与えください。そして、この女性の体にある病は呪われよ。創造することのできる聖霊がここにおられるので、彼女の心臓は新しくされますように。私はこれを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

今、私は心臓について触れましたが、あなたは他にも喘息などを患っておられました。しかし、それも同じです。神はすべてを癒されました。大丈夫です。

88 さあ、姉妹、こちらへおいでください。聖霊はあなたを癒そうとしておられます。聖霊はただ、人々の心の中に入りたいと願っておられるのです。信じなさい。

さあ、姉妹。私を見てください。そして、私が神のしもべであることを信じてください。信じますか？——ああ、これは、あなたが長い間待ち望んできた時です。

(「本当です、1年間」)

あなたはこの時を見ることを切に願ってきました。あなたは苦しんでおられます。乳房に腫瘍がありますね。

(「その通りです」)

さらに、あなたを悩ませている心臓の病もあります。そうでしょう？ あなたはもっと深いものを求めてい

ます。そして……ああ、見えます。あなたはどこか遠くへ長旅をしました。そして、ある場所に行きました……それは……私の集会でした。あなたは通って来ていたのですね。

(「はい」)

これがその時なのですね？ こちらへいらっしやい。

89 天にまします神よ、すべてのものを創られたお方よ、

私は今、あなたのしもべとしてこの女性を祝福し、彼女の体にある病を呪います。

あなたは天の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神であります。

そして今ここで、ご自身をあらわし、高めておられます。

主よ、あなたはまさに、神の御言葉が真実であることを立証しておられます。

私たちのこの姉妹は、謙遜に待ち望み、「深きが深きに呼び求める」その思いを抱いて来ました。

ここに立っておられます。涙をこらえることもできませんでした。

なぜでしょう？ それは、これこそが彼女が長年待ち望んできた時だからです。

今、彼女はここに立っています。

ああ、大いなる天の父よ——

私たちは今、あなたの御前におります。

彼女の体にあるこの病は呪われよ。

それが彼女から去り、彼女が生き、強められ、健やかにされ、あなたに仕えることができますように。

私は彼女を祝福し、この病をイエス・キリストの御名によって呪います。

アーメン。

神があなたを祝福されますように、姉妹。

あなたは——これほど忠実に、そして信じて待ち望んだのですから——必ず受け取ることになります。

90 お姉さん、どうですか？ 今、あなたは信者であり、思想家であり、心臓の問題に苦しんでいる静かな人です。彼はあなたを元気にするでしょう。そして、あなたは生きることができます。彼はあなたが生きられるように死んだ。あなたはそれを信じますか？ 私は彼の名においてあなたを祝福したいのです、ほら。私の…これは男です。できませんでした。しかし、私は彼がこの聴衆に私が真実を語っているのを目撃していると信じています。彼はこの目的のために私を送ってくれました。そして彼は言われました、「あなたがここで地上で何をするにしても、私は天国でも同じことをします。そして、もしあなたがこの地上で誰かを失ったら、私は天国でそれを失うでしょう。」それから私が彼を正直に代表しているなら、彼は立証の権威を与えられました。言い換えれば、それを真実にするために、私がそう言ったからではなく、彼はここでそれが真実だと言っています。それで、もし私があなたにこの心臓の問題から解放されるように頼むべきなら、神はそれを天国で確認するでしょう。そうですか？

91 そして今、主の御言葉に従い、私はあなたの手に自分の手を置きます。

神の御子、主イエス・キリストの御名によって、

私は主の代表として、この心臓病を解き放ちます。

サタンよ、

あなたはこの姉妹を縛り、

彼女を墓にまで連れて行こうとしています。

確かに年齢は重ねていますが、  
私たちの神は年齢を問題とはされません。  
私は、カルバリの代表として、  
神の代理人として、あなたに召喚状を突きつけます。  
あなたはもはやこの家(体)に留まることはできません。  
聖霊なる神の探偵は、  
今ここで、あなたの隠れた場所をすべて暴かれました。  
あなたはもはや隠れることはできません。  
全能の神の力によって、  
主イエス・キリストの御名によって、  
この姉妹の心臓病は呪われ、  
今すぐ解き放たれますように。  
アーメン。  
主イエス・キリストの御名によって行きなさい。  
そして神の平安があなたの上にありますように。

92 信じて、しばらくの間、頭をお下げください。

おお神よ、  
イエスを死からよみがえらせてくださったお方。  
この耳の聞こえない女性が、今、私の前に立っています。  
彼女のうちには、耳を聞こえなくする霊が住んでいます。  
主よ、彼女は完全に癒されたいと願っています。  
あなたをあがめるために、この祝福を受けたいと願っています。  
今、主よ、あなたが私たちを遣わされ、  
全世界に行って弟子をつくり、病人を癒すようにと命じられたその御言葉に従って、  
私はカルバリでのあなたの身代わりの苦しみを代表してここに立っています。  
あなたの打ち傷によって、私たちは癒されました。  
この悪しきものが私の姉妹の上に臨みましたが、  
私は主イエス・キリストの御名によってこれを呪い、追い出します。  
これに対して権威を主張し、命じます。  
「この女性から出て行け!主イエス・キリストの御名によって!」  
——私の声が聞こえますか?  
——今、私の声が聞こえますか?  
——今、私の声が聞こえますか?



(できる限り小さな声で)——今、あなたは癒されました。

あなたの聴力は正常になりました。

神の祝福が、あなたの上にありますように、我が姉妹よ。

93 「神に感謝します」と言いましょう。

耳が聞こえないというのは何でしょうか？

それは霊なのです。

たとえば、私の手の力を遮断されるようなものです。

さて、医者はその女性を診ました。

背が高く、痩せていて、眼鏡をかけた医者です。

彼はこう言いました——

「耳の神経が死んでいます。」

では、その神経は何によって死んだのでしょうか？

体全体の神経が死んだわけではありません。

医者である兄弟が知っていたことは、

その神経が外側からではなく、内側から働かなくなっているという  
事実だけでした。

彼女は話すことができました。

耳も口も、ほとんど同じ神経で働いているはずですが、

というのも、同じ霊がほぼ同じ部分に影響を与えているように  
見えるからです。

しかし、その神経は働いていませんでした。

では、それは何だったのでしょうか？

94 医者が診察すれば、もし骨がその神経を押していて、  
力を遮断しているのなら、手術をして骨を元の位置に  
戻すことができます。

しかし、もしかすると、五感では何も確認できない場合があります。

見ても、触っても、何も感じられない。

それでも、その神経は死んでいるのです。

では、何がそれを死なせたのでしょうか？

聖書にはこう書かれています。

耳の聞こえない霊がその人から出て行ったとき、

彼は聞くことができた——と。

それは霊なのです。

他の病気と同じです。

よく見てください。

今、ここで主の御前に立つとき、あらゆる病とすべてのものは去っていきます。

しかし、もし神への信仰を持たず、心から神を信じないなら、その病はまた戻ってきます。

耳が聞こえなかったあの女性をよく見てください。

もし彼女が数日後、神を信じ続けなければ、あの同じ霊が再び戻ってくるでしょう。

しかし、今は主の御前にいるのです。

95 今、この場にいる全員が同時に信じたなら、その瞬間にすべてが起こるでしょう。必ずそうなります。

これは“雰囲気”なのです。

そうすれば、その瞬間にすべてが成し遂げられます。

ああ、もし私たちがそれを十分に見て、信じ、信仰を持つことができたなら——天の父がどんなに素晴らしいことをしてくださることでしょう。

——その姉妹、あなたは脊椎の病が癒されるよう神に祈っていますね。

もし心の底から信じ、受け入れるなら——信じますか？

受け入れますか？

受け入れるなら、手を上げてください。

よろしい。

では、あなたはもう癒されました。

神の祝福がありますように。

疑わないで、信仰を持ち続けてください。

——その兄弟、あなたは何を祈っていましたか？

そのリウマチから解放されたいと願っていましたね。

神は今、あなたを癒されました。

立ち上がってください——あなたは癒されています。

神はあなたを完全にされたのです。

神の祝福があなたの上にありますように。

疑わず、ただ信じてください。

96 兄弟よ、あなたはここに来る前に、すでにその心臓の病が癒されたと信じますか？「はい、信じます」そうです。その通りです。

—そう、まさにそこで、それは起こったのです。

あなたがあの椅子に座っていた時に。

ただ主を信じ続けなさい。

天の父よ、今、この人の上に信仰があり、彼は今こそそれを

受け入れなければならないことを知っています。

どうか確かにこの病が去りますように。私は、この人を

早すぎる墓へと追いやろうとするこの悪魔を呪います。

それが彼から出て、二度と彼を悩ませることがありませんように。

主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

さて、兄弟よ…もちろん、今は違いを感じておられるでしょう。

そうです、それはあなたから去りました。

あなたの心臓は再び正しく鼓動しています。

ですから、ただそのことを信じ続けなさい。他の何も受け入れて

はなりません。

ただ信じ続け、そのまま歩んで行きなさい。あなたはこれからも

ずっと生き続けるでしょう。

神の祝福がありますように。

さあ、「神に感謝します」と言いましょ。

97 「もしあなたが信じることができるなら」、主は言われました、「すべてのことが可能である」。そうではありませんか？

信じる者には、すべてのことが可能なのです。

そして今、どこにいるどの男性でも女性でも、もしそれを受け入れ、信じようとするならば、神はここで自身が約束されたことを成し遂げてくださいます。

あなたはしばらく喉の病を患っておられましたね。そうですね。

今、主があなたを癒されたと信じますか？

その通りです。主はあなたを癒し、あなたを健やかにされました。神があなたを祝福し、ともにおられますように。

あなたは何度も気管支の病を患ってこられましたね、そうでしょう、姉妹よ？

あの時、彼がその喉から癒された時、その癒しがあなたにも流れ、あなたは癒されたのです。

神があなたを祝福されますように。

今や、この建物のあらゆる所で主は人々を癒しておられます。

あなたも今、その腎臓の病が癒されましたね、兄弟よ。神があなたを祝福されますように。

さて、他の方々も今、癒されたいですか？

では、互いに手を置きましょう。

98 全能の神よ、どうか今、憐れみをもってこの兄弟を祝福し、癒してください。

ここから出て行くとき、彼が主イエスの御名によって完全に健やかにされますように。

そして今、主よ、ここにいるこの愛らしく優しい会衆のために祈ります。

彼らは待ち望んでいます。時が時へと過ぎても、私たちの愛する主イエスは、私たちとともにおられ、私たちを祝福し、ご自身を一人ひとりに現してくださっています。

主よ、今、憐れみをお与えください。

私は知っています。ここにいるすべての霊、すべての悪しき霊は、今や全能の神の力のもとにあり、出て行かねばならないことを。

今、頭を垂れておられる間に——あなたが誰であろうと、どこから来られた方であろうと、何が間違っていようと——

今、あなたの体を苦しめているすべての悪しき病は、私の祈りの権威のもとに置かれています。

そして私の祈りは、神に向けられています。

神があなたがた一人ひとりを癒してくださるようにと。

私は真理を語りました。そして天の御父は、私が語ったことが真理であると証してくださいました。

イエス・キリストは今ここにおられ、あなたがた一人ひとりを癒し、御言葉を成就し、ご自身が約束されたこと、

そしてすでに行われたことを確認してくださるために働かれます。

そして主は、私をその代表者として遣わされました。

あなたがどれほど病んでいようと、どれほど悪い状態であろうと、どれほど弱っていようと、何が間違っていようと——今、この瞬間、明日の朝ではなく——今、主イエス・キリストはあなたを癒されます。

そして今、サタンよ、私はお前を呪う。

病と弱さの霊たちよ、呪われよ。

お前たちはこの人々を縛ることはできない。

今夜ここに、神の聖霊が信仰を創造された——

その御前にお前たちは立ち続けることができない。

お前たちは退かねばならない。

彼らから出て行け。

私は、神の御子イエス・キリストの御名によって、サタンよ、

お前に命じる——この人々から離れよ。



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

説教の語り手

ウィリアム・マリオン・ブラナム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7